

第1章 職業生活への移行プロセスと障害

1. はじめに

本章では、学校から職業生活への移行のプロセスにどのような障害があって、スムーズな移行が果たされていないのか、本調査の対象者の状況から考察する。

ここで「スムーズな移行」とは、学校卒業と同時に新規学卒正社員として就職し、安定的な就業状況に至ることを指すこととする。すなわち、日本型の長期雇用と連動した新規学卒就職・採用システムに乗る経路である。序章に示した「親の家計に依存して学校に通う状況から、職業を持ち経済的に自立する」プロセスとする移行の定義に比べてかなり限定的だが、国際的に評価されてきた日本の移行システムとは新規学卒就職・採用のシステムに他ならない。さらに、現状の我が国では、正社員とそれ以外の雇用形態とのあいだの格差が大きく、非正社員から正社員への経路は非常に見えにくい。こうしたことから、「職業を持ち経済的に自立する」状態にスムーズに至る経路のメインストリームが、学卒就職して安定的な就業状態に至る経路と言えるだろう。

本調査のすべての対象者は、この「スムーズな移行」経路からいずれかの段階で降り、無業やアルバイトでの就業という現状に至っている。この章では、この「スムーズな移行」経路からの離脱が、どのように起こっているか、個々のケースを検討していきたい。その上で、移行プロセスの障害となる事象とその発生の背景について、整理することを試みる。

そうした障害は、まず、次のような時点で明示的なものとなろう。第1に高校での学校幹旋や大卒の新卒採用のプロセスそのものに乗らなかった時点、第2に幹旋プロセスにのっても幹旋が成立しなかった時、第3に就職が決まっても早期に離職した時、さらに、第4に離学後・離職後に、正社員の仕事に（再）就職しない時である。以下ではこの時点ごとに新規学卒正社員へのコースからの離脱を促した要因、また、その後、移行が阻まれる状況を継続させる要因について、主に労働市場・職業能力形成・就業意欲など労働にかかわる側面からの対象者の言説によって見ていく。

2. 学校幹旋・新卒採用プロセスからの逸脱

ここでは、学校から職業生活への経路のなかで、新規学卒採用プロセスにのりそこなうという意味から、学校段階に発生した問題とその後の移行トラブルとの関係を取り上げる。学校教育における問題そのものは、後の章であつかう。

2.1 高校非進学

中卒就職は近年極端に求人が減少している。高校進学率 97%という現状で、高校進学をし

ないことはすでに労働市場の中では不利な立場に立つことを意味する。高校へ進学しないケースは、(1am) のように学校を抑圧的なものにとらえての反発や、(2am) のように学校への適応ができず、居場所が見つからない形で不登校になった結果である場合もある。(1am) のケースは卒業時に学校の支援をうけてガソリンスタンドに就職した。しかし、上司の態度を抑圧的なものにとらえて反発して6ヵ月でやめ、その後も、しばらくの間「朝起きられない」など生活習慣の確立ができず短期の雇用を繰り返した。(2am) は、その後フリースクールに通い、アルバイトで就労するようになる。一度、知人に勧められて正社員に応募したことがあるが、採用されなかった。今も、自立への思いはあるが、学歴も経験もないという経歴に自信が持てずに、正社員への応募をためらっている。

(高校進学でなく就職にしたのは?) 学校という何かに縛られたくないという自分が多分あったと思います。…何か変なこだわりがあってね、学校というところには行きたくなかったんですよ。…あのとき考えていたことは、学校が嫌やったというしか、いまだにちょっとわからないですね。

<1am・24歳・中卒・男性>

(就職先のガソリンスタンドで) やっぱり社長というか、店舗の上の一番偉いさんの人ともめてやめたんですけど、やっぱり言い方が結構かちんときて、人間関係が一番難しかったですね。…そのときの中学卒業しての僕ですから、まだとげとげしい部分もあって、ささいなことでもまともに受けて反発してしまうという時期の自分やったんで、今、言われてもそんなに大したことないことなんやろうけど、あのとき感じたのは、何でそんなに偉そうやねんみたいな感じでしたね。

<1am・24歳・中卒・男性>

(その後) もうぎょうさん面接やら行って、受かったのに行っていないとかありますから、そういうのを全部含めたらもういっぱいあるんですよ。だから、回転ずしへ行って3日でやめたり。(これはどうやって探したんですか?) これは職安ですね。受かって3日間行ったんですけど、次の日からやめました。(何で?) 起きられなかったからですね。…あと、段ボールの倉庫の、段ボールをつくる仕事ですけど、段ボールの組み立てるまでの。受かったんですけど、行ってないですね。…一度も行ってないです。面接だけ行って、「受かりました」というのが来て行ってないんです。(それは何で?) 起きられなかったんです、それ。起きたらもう次の日の晩なんですよ。あーという感じですよ。(行く気はあったの?) 行く気はありましたよ。行く気はあったんですけど、ぱっと起きたらもう晩なんですよ。

<1am・24歳・中卒・男性>

中学は、1年で不登校したんです。夏休み明けから。(どんな心の状況だったんですか?) 答えはよくわからないんですけども、中学校で生活の環境が変わって…(他の小学校からの) 人たちの入ってくる中にいて、何か居場所がないというか、学校に行っても楽しくないというか。…あまり人受けする感じの人間ではなかったんで、いじめられたりとかも多かったんです。…先生の接し方みたいなのも違って、小学校のときはあまり勉強がどうこうとか言われなかったんですけど、中学になってから、ちょっと厳しめになったんですかね。…そこをうまくやっていくことができなかつたんですよ。

<2am・22歳・中学卒・男性>

中学校を卒業するときに、担任から通信制の高校に行くのを勧められたんですけど、…

当時フリースクールに行っていたので、また学校に行って、通信制の高校だから違うんですけど、嫌な思いをするよりは、とりあえずフリースクールでいろいろやれることをやっていきたいなと思っていました。…当時は、学歴がどうか、世の中のことを全然知らなかったから、そういう指導もされてこなかったですし、そういうことは考えずに、ただ高校に行くよりはフリースクールに行きたいなというだけです。将来のこととかは考えてなかったですね。

<2am・22歳・中学卒・男性>

NPO法人とか、あとは自分で事業をやったりとか、そういう変わったおもしろいようなことをやって生きていけたらいいなとは思っています。…(でも)踏み込むことができないのは、自分はこれができるとか、あれはできるとか、こういう能力があるとアピールできるものがないと思っているからだと思うんです。少なくとも社会人経験があって、そういうことができるというのがあったら、積極的にやってみるような気がしますけれども、自分の能力のなさというのが一番のネックだと思うんです。…(そのためには)また面接とか、就職活動をしなくちゃいけなくて、その就職活動のときに、さて自分は何をアピールしたらいいんだろうというのは、多分、一番の悩みだろうと思うんです。

<2am・22歳・中学卒・男性>

2.2 高校中途退学

2.2.1 高校中退の事情

学校を中途退学することも、同様に、新規学卒就職の経路から外れることになる。高校からの中退には、まず、(3bm) や (4bf) のケースのように学業不振と遅刻・早退が多いタイプ、すなわち、学習の場としての学校からの逸脱のケースがある。学校は友達がいるからくる場であり、学業には価値を感じていない。友達との遊びの場は夜の街に広がり、その遊びに必要なお金のためにアルバイトは長時間行っている場合が多い。夜遅くまで家には戻らないので、朝はさらに起きれない。中退を決めるとき、ほとんど将来の職業などについては考えていない。行動を抑圧するものとしての学校からの離脱である。

(高校を中退したのは)留年したから。留年したらやめるって決めとったから。(休むようになったきっかけは?) だるかったから。…朝起きるのがちょっとだるいし。学校行くために起きるのは面倒くさい。…授業中もおもろかったけど、授業としておもろいんやなくて、自分らで勝手に遊ぶからおもろい。席移動して友達としゃべって、全然授業無視して。(先生に注意されない?) そんなん、別に言われたってほっといて、しつこかったらキレて、反対に授業つぶして。

<3bm・17歳・高校中退・男性>

(やめるきっかけは?) 友達関係はうまくってたんやけど、友達とちょっと殴り合いになって青あざ作ってしまって、…その子が朝学校行って保健室で何年何組のだれだれさんに殴られたって言って、両方の親呼び出しされて。んで退学まではいかんかってんけど停学にはなるかもって言われて。で、結局停学にもならんかったんやけど、ダルなってやめますゆうてやめた。

<4bf・20歳・高校中退・女性>

(高校は?) 定時制。2年でやめた。…(2年生のいつ頃辞めました?) 覚えてない。けっこう行ってなかったから。…最初の方は行っていた。3学期はあまり行ってない。

(なにかあわなかった?) 夜ってしんどかった。

<6bf・20歳・定時制高校中退・女性>

表1-1 中卒・高校中退ケースの離学時の事情

対象者ID		1am	2am	3bm	4bf	5bm	6bf	7cm
年齢		24	22	17	20	20	20	24
学歴		中卒	中卒	高校中退	高校中退	定時制 高中退	定時制 高中退	中退後 定時制 高卒
性別		男	男	男	女	男	女	男
地域		関西	首都圏	関西	関西	首都圏	関西	首都圏
現状		アルバイト	アルバイト	アルバイト	パート	NPO 非常勤	無業	アルバイト
中学卒業時	学業不振 反学校的文化 学校不適應・不登校 異性関係トラブル 遅刻・起きれない	○ ○ ○	○			○	○	
高校中退	留年 学業不振 個人的トラブル 不本意進学 遅刻 けんか 夜の学校はつらい 他にやりたいことがある			○ ○ ○ ○	○ ○		○	○ ○ ○

一方で、中学校での学校不適應をから定時制の高校へ進んだ(5bm)のケースでは、学校での勉強に価値を感じていない点は共通しているが、むしろ別にやりたいことを見出し、それに惹かれて高校を離れていく。もともと親の転勤で転校してきたことから、学校文化の違いもあって学校生活になじめなかった背景があり、前の2ケースのような遊び友達の輪があるタイプではない。

バンドを組むんだけど、田舎なんでないんですね、人が集まらないとか。バンドを組みたいけど、組めないしという状態だったので、…高校1年で、10月にはやめて、東京のほうに上京してきて。…(それは思い切った決断ですね?) そのときはやりたいから行こうかなという思いがあって、例えば学校に行ってたころ、先生との関係もあまりよくなかったの、やっぱりやりたいことをやれる場所に行ったほうが、後悔ないんじゃないかなという思いがあって出てきたんです。

<5bm・20歳・高校中退・男性>

また、中学校までは学年のトップクラスで、順位争いを楽しむように勉強してきた(7cm)のケースは、大学付属の難関校に入学はしたものの、燃え尽き感と追い討ちをかける国籍問題に、精神のバランスを危うくしてしまう。

中学3年の12月か年を明ける前後から、集中力がなくなってきちゃって、勉強をずっとしてたんで、それがずっと尾を引いちゃってたんですけど。高校時代、何かやる気が出ない。何か糸が切れちゃったみたいで。…あれが大きかったんですよ。僕、在日朝鮮人なんですよ。両親ともそうで、それを高校に入る前に母親から聞かされたのがすごいショックで。…それでやっぱり未来が見えなくなっちゃったというか。…結局、やめることになったんですね。1年から2年には進級したんだけど、実は2年の5月に母親と別居したというのがあって、そこから余計にはまり込んでいって。その中でずっとやっぱり2年半ぐらいカウンセリングを受けて、安定剤とか睡眠剤とか飲んで。…2年から3年に進級できなくて（中退した。）

<7cm・24歳・一旦高校中退後高卒・男性>

2.2.2 高校中退後の就業

上記のケースのうち、(3bm)は親から中退を許す条件として働くことを求められ、就業支援組織でのアルバイト、すし屋のアルバイトとつないできている。本人は中学生時に調理師学校への進学希望があり、すし屋での仕事には意欲を持って取り組んでいる。正社員になるよう誘いも受けているが、まだ、気持ちは定まっていない。

(正社員になることを勧められているが)今だけのことを考えたら、バイトのほうが金ええから。今は正職になったほうがちょっと高いけど…時間的に考えたら、金は少ないけどバイトのほうが…(正社員になったら)昼から夜中の、下手したら明け方ぐらいまで。仕込みのために昼から出てきて、夕方から店開けて、12時閉店やからそこから全部片づけ始めるから。…、4、5年も続けるかどうかもわからんから、確信できてからのほうがええかなって。…ちょっと間違って続けられそうだったらやってみようかなと。

<3bm・17歳・高校中退・男性>

一方、(4bf)では夜友達と遊ぶことが生活の中心で、朝や昼は起きれない、夜は遊びたいと、お金はほしいものの長期のバイトはできず短期のものを転々とする。17歳で未婚の母になり、親や祖母の助けを借りながら子育てをしてきた。昨年から父親の紹介で公共施設のパートに入り1年以上続いており、今は正社員を希望している。しかし、「その(正社員に応募する)前に、高校卒業してないし、資格とか多分取られへんと思う」「(定時制高校等への復学を)親にゆうたことあったんやけど、自分が続けられるときに行きって。そんなあやふやな気持ちで行きなやって。別に今からいかんでももうちょっと子どもが大きくなってからでも行けるしなあみたい。その間子どもどうすんのかって」言われ、復学は果していない。

(5bm)のケースは、上京後、音楽学校(高卒を条件にしない)に入り、並行してバンドも組んで音楽活動には積極的に取り組む。その後、「プロも難しいかなあと、別のこともやってみよう」と、大検を受けて大学入学資格を取ったり、若者支援のNPO活動に参加していくなど、社会的なつながりを作っている。ただし、自立した生計にはまだ遠い。

今の(NPOでの)活動は3年後も続けたい。これはほんとうに願望に近くなってくるんですけど。…ただ、状況が許すかどうかという。やっぱり僕の中で自立したいという

思いがすごくあって、どここのとこまでやるかなという。まあ、いい状況に、例えば今の活動でも、食べるだけの額になるかもしれない。3年かな。わからないけど、どこまでやるかというのはほんとうに自分の中である程度。…正社員とか働くという方向でやるかもしれない。ただ、今のところは全然考えてない。

<5bm・20歳・高校中退・男性>

(7cm) の場合は、この進学校を退学した後、定時制高校に編入し、卒業する。しかし、就業への自信と意欲ははっきりしないまま、農業での有期のアルバイトを繰り返す。背景には、進学校での挫折に加えて、日本国籍をもたない出自を知ったことからくる、前途への絶望感が強く感じられる。中学校までトップクラスの学力を保持し、漠然とではあるが、一流大学、一流企業といった将来を描いていただけに、自分の努力では何ともしがたい壁として国籍問題が立ちはだかり、強い絶望感を持ってしまったのではないかと思われる。

高校受験に打ち込んで、そこからもう切れちゃったんですよ。そうなる感覚って怖い。結構、壊れやすいんで。何でも、たまっちゃうほうなんで、たまって潮が満ちてまた何かやる気がなくなって鬱病っぽくなるのが怖いんですよ。それが今までずっとありましたからね。その怖さというのかな。でも何かこうようやくとれてきたのかなと。…引きずってましたね。だから、農業なんかも踏み込めなかったと思うし。

<7cm・24歳・一旦高校中退後高卒・男性>

表1-2 高等教育中退ケースの中退の事情

対象者ID		8dm	9dm	10df	11dm	12df	13dm
	年齢	24	22	28	32	20	28
	学歴	大学中退	短大中退	大学中退	大学中退	専門中退	大学中退
	性別	男	男	女	男	女	男
	地域	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	関西	首都圏
	現状	無業	無業	無業	アルバイト	無業	アルバイト
高等教育中退	校則・行動制約に反発					○	
	学業不振・留年	○	○		○	○	
	学習内容に不満		○				
	他にやりたいことがある		○				
	病気			○			○
	学校不適応・不登校	○		○	○		

2.3 高等教育段階での中途退学

2.3.1 高等教育中退の事情

高等教育からの中途退学も、同じく新規学卒就職への経路から離れていくことになる。中途退学の契機としては単位が取れないなど、大学での学業に関心が湧かなかつたり、ついていけないなどの理由が多い。具体的には、中途退学の理由は次のように語られている。

(工学部に入学して) 1年目は前期も後期も教養科目が多めで乗り切れたんですけど、

2年目は専門科目に入ってきて、前期も後期も単位が足りないということになって。…成績も厳しいし、例えば寝ていたら追い出されるようなところだから。…結局、何となく学校には行かなくなったんで。…(大学をやめるときはどういう気持ちだった?) 元通りの位置に戻ったという…やっとほっとしたという感じでしたね。

<8dm・24歳・大卒中退・男性>

(何で単位足りないの?) ギリギリ単位取ればいいなという考えだから…(大学と)同時進行で、〇〇のほうの(他大学の学生との)イベントに参加してたんです。企画をやったり、企画、構成、あとは誘導とか設営とか、その他もろもろの。…(自分の)学校のほうのレベルが低くて、そっちへ行っているほうが勉強になったというか。…(専門である)お花の面ではいいんだけど、ほかの面で見ると、何か下みたいなの。でも、いるだけでつまらないみたいなの。

<9dm・22歳・短大中退・男性>

法学部に行きたいと思ったので、全部法学部で、上の大学から下の大学まで法学部だけで、…まあ、スベリ止めしか受からなかったんで。…自分は勉強はしてこなかったけど、ちゃんと関心はあるんです。だけど、みんなは関心がない。…六法を習いますよね。わたしはこうして見ているんだけど、みんな持ってこないの。重いしって。で、いつも何か出席をとるの「出しておいてね」とか、何となく憂鬱になってきて、私は努力しなかったから、向上心を持っている人達の間に入れなかった。…18か19の時に何もしてこなかったというのを大学に入って嫌というほど思い知らされた訳です。…今まで私は何をしていたんだと思って、ちょっと行けなくなっちゃったんですよ。

<10df・28歳・大学中退・女性>

(2浪後に受かった大学は?) まあ、スベリ止めとして自分が認められるぐらい。…しよがないかなという。もう要するにほんとうにもう自分が通したいというのは、そのころまでに随分磨耗し切っちゃって、特に何も残ってないような状態だったので、大学というのも義務感がないし、それでほとんど授業は受けなかったですね。サークルのほうは何とか2年間、3年間ぐらい行きました。学校の授業は全く受けなかった。

<11dm・32歳・大学中退・男性>

この4例を見ても、大学での勉学への意欲を失う背景は一様ではない。まず、(8dm)では、高校在学中の文系・理系のコースを「たまたま、二択でどっちかと言われたら、どっちかに丸をつける」という形で選択し、理科系コースにいることに本人はかなり違和感をもっていたのだが、にもかかわらず、推薦で入れるからと工学部の機械科に進学してしまう。工学部の専門科目には、関心もないしついていけない。(9dm)は華道家を目指しての、(10df)は弁護士という将来の職業を描いての進学だったが、周りの学生の行動や大学の環境に納得できず、大学から離れていく。

(11dm)は、親の転勤に伴い小学校から高校まで何度となく転校を経験し友人関係を築けなかった。さらに家族が渡米の後、一人で入寮して予備校に通う生活を2年続けたあげく、不本意な進学をする。学業への意欲がわからないばかりでなく大学に通うことそのものもやめ「全く何もしない生活」に陥り、そのまま退学している。誰からも干渉されない生活が、孤立・孤独につながり、社会関係を失っていった。

次のケースは全く逆に、厳しい学校の生活指導が、高校を卒業したら自由になるという学

生側の期待裏切り、強い不満を抱かせて中退につながってしまったものである。高等教育において、どこまで生活レベルまでのサポートをするかは難しいところだろう。

また、これらのいずれのケースも、中退を選ぶ時には後の就業に与える影響はほとんど意識されていない。

(看護専門学校に) 入るまでは頑張ろうと思って、頑張る気十分やったけど、…厳しいんです。前、あそこ准看学校やって、高看に変わったんです。…それで (私たちが) 第1期生やって、すごい厳しかったんです。髪の毛茶色かったら「染めや」とか、ほんまにそんな言うことないやろうと。3年生はどうでもええのに、何で私らだけこんな言われなあかんのと。…3年生、あんな茶色いのに、パーマかかってんのに、何で1年生だけ言われなあかんのと。…そんなんとかでむかついとったし、わからんくせに口出すからむかつくんです。自分らは看護婦やとって、偉いと思ってるか知らんけど、何かわかったような口きくからむかつく。…とにかく学校では先生と顔合わせたくないし、もうすべてがむかついてくるんですよ、学校行くこと自体が。だから、しんどいから普通に理由つけて休んだりとかして、もう行きたないわ、もう顔見るだけでウザインです。

<12df・20歳・専門学校中退・女性>

このほか、(13dm) と (10df) では、心のバランスを失ってしまう病気の発症も中退の原因となっている。

2.3.2 高等教育中退後の就業

さて、中退後の状況は、短期間正社員で就業している場合もあるが、無業かアルバイトが多い。さらに、その後には別の学校という選択を行う (行おうとしている) 者も少なくない。

アルバイトで目立つのは、短期のものを選択する傾向があることである。

(大学を退学してからは?) それからバイトをどんどんしまくる感じで…長く続いたのはほとんどなかったです。印象的なのは逆に短かった…雇う側の上司のほうが、自分と近い歳で嫌なやつ、1週間 (で辞めた)。…自分からバイトやめたのは3つぐらいで、あとは期限付きのバイトしかやらなかったんです。…それで要するにバイトをやめるという段階になって、やめるのを一々言い出すのも面倒くさいから、あとは自分で続かないというので、最初から期限がくついたらバイトをやったほうがいいかなと、それでだんだん期限付きバイトをして、そんな感じで短く切っていくバイトができるようになった。

<11dm・32歳・大学中退・男性>

(短大を中退したのは?) 自衛隊のためです。…アメリカの9.11のグランド・ゼロがあった日にちょうどあって、それから自衛隊に行って… (その後何を?) 陸上自衛隊、警備員、お風呂掃除屋さん、パソコン屋、派遣ですね。エキストラと俳優。(それぞれは大体どのくらいの期間?) 自衛隊1週間、警備員が1ヵ月、お風呂屋さんが3日、パソコン屋さんが1ヵ月、エキストラが3年目、タレントが2年目です。… (今は) お金をもらうことはエキストラをやっています。…1ヵ月に5回あるかないか。…1本当たり5,000円なので。…自衛隊をやめてから、どれに向いているかなあって探して、一応お風呂掃除というのを経験をして、それから、営業もしたいということで営業もして、そこからもっとやりたいということで派遣のほうもやるんですね。

<9dm・22歳・短大中退・男性>

(9dm) のケースは、他方で単位不足で進級できない状況があり、自衛隊への入隊は1週間でやめているように、進路を選びなおしたというより一時的な、感情的行動である。アルバイトを転々とするのは、次の進路を模索する過程で経験を広げ、選択する力を付けたいという思いがあるのだろう。

その後の進路を切り開く手段として、何らかの学校で資格なり技術なりを身につけようという行動を多くの者がとっている。

(中退して) またしばらく何もしなかったんですけども。…次の春には専門学校に行くんです(どういう専門学校?) 編集。(なぜ編集?) 子供のころから会社にスーツ着て毎日通って…どうなのかなというのがちょっとあって。それと、もちろん、本づくりがしたいということもあって…(勉強はどうでした?) すごく楽しく。人脈をつくりに来ているような…厳しくはないんで、専門学校なので技術を身につければいいということだったから。…(編集者になるための就職活動は大変でした?) 大変になる前にもう引いちゃった。…(応募したのは) 全部で10ぐらいじゃないかなという気がするんですけど。(引いちゃったのはなぜ?) 求人票を見て、資格のところで大卒とついていたけれども、会社訪問は可と書いてあったので行って…(何月ぐらいまで活動したの?) 7月に会社を受けて、あと、おもしろそうなことをやっているところだったから見に行こうとなって。(それが最後?) うん。

<8dm・24歳・大卒中退・男性>

キャリアとかそういう位置付けはわかんないですけども、漠然と自分の中でこういう人になりたいというのは。…人のかかわり合いの中で、やっていくのが。人のニーズを取り出していきたい。(例えば?) ソーシャルワーカー。…今のところソーシャルワーカーというのは、資格としてまだないからというのがあって、ただ勉強しなくちゃいけないから、一応、今、放送大学へ。

<11dm・32歳・大学中退・男性>

カウンセリングの勉強もしたいなと思って。…(その目的のために、今何か具体的にしていることってありますか?) 今まず、カウンセラーの講習を受けなきゃいけないので、その講習のために今年1年は、その講習費を稼ぐという1年に今年はしようと思っている。

<13dm・28歳・大学中退・男性>

(大学を離れてからの見通しは?) ないです。…したいことを探しました。ワーホリに行こうかと。…ワーキングホリデーもいいと思ったし、軽い気持ちで行って、それでなれたらいいと思ったんですよ。結局行けなくなっちゃったんですね。…失恋しちゃったんです。髪の毛が頭皮が見えるぐらい抜けちゃったんです。…(その後) 英語教室はいっぱい行きましたよ。専門学校も行ったし。あと、語学学院もいろんなところを覗いて…〇〇外語学院とか〇〇会話学院にちょっと通ったんです。

<10df・28歳・大学中退・女性>

1年間また勉強して看護学校に再入学しようかなと思ったけど全部無理やって、それで看護師をあきらめて保育士になろうと思って、〇〇短期大学の通信教育部の保育学科に願書を提出して、今結果待ちっていう状態なんです。…(なぜ保育に?) 前から迷ってたんですよ。高校のときぐらいから、看護師か保育かどっちかやって。でも、やっぱり看護師になりたかったから一回頑張ってみようと思ったけど、自分が悪かったけど、入っても勉強に集中できへんかったということがあって、もう一回自分が何になりたいかを決めたかったからやめて、1年間頑張ったけど無理やったから保育に…。もうこっ

ちをきっぱりあきらめて保育に決めた。

<12df・20歳・専門学校中退・女性>

高等教育中退者の場合、高校中退者よりなんらかの教育機関を利用して職業能力を身につけようという行動をとる者が多いのではないかという印象を受ける。また、高校中退者で、大学入学検定試験を受けたり、他の高校への編入をしている者ものもいるが、彼らの場合は、小学校・中学校時代には学業成績については自負を持ったものだった。一方で、友人との交友の場としての学校という認識が強い若者たちは、学校に戻ろうとはしない。こうした学校認識の者の中では、(4bf) のケースが高卒資格の必要を認識しているが、これも公共機関への就職の可能性が見えてきたときに初めて起こった変化である。若者の就業支援プログラムを設計するに当たって、職業能力獲得のためになんらかの学校を利用しようとする者としていない者がいることを認識しておく必要があるだろう。

また、職業能力の獲得のために学校機関を利用したとしても、実際のところ、それで就職への経路が開けるとは限らない。就職には労働力需要の有無が決定的な要素である。編集者という需要の小さい職業を目指した(8dm)は就職活動を始めたところで早々に挫折している。ただし、このケースでは、就職活動は止めてしまったが、そこで出会った講師のホームページに文章を掲載することを認められるようになっている。学校進学は、直接的な職業能力開発によって就業機会を広げる役割のほか、職業・産業界に関する周辺的情報の獲得や人的つながりを広げ、また、本人の意欲を高めて、可能性を広げる役割をも果しているということができるだろう。

2.4 就職活動をししない

2.4.1 就職活動をししない高校生

卒業はしていても在学中に就職活動をせず、当然就職先が決まらないまま無業で学校を離れていく者がいる。まず、高校卒業時に就職活動をしなかったケースの活動しない理由を見てみよう。

(高校在学中に就職活動は?) 全然しなかったです。最初は何もする気がなかったのです。
(就職志望だったんですか?) とりあえず、何もしないよりはいいかなと。…4月も何もする気がなくて(就職活動をしていない)。

<14cm・19歳・高校卒・男性>

表 1 - 3 就職活動せずに卒業した高卒ケース

対象者 I D		14cm	15cf	16cf	17cm	7cm	18cf	19cf
年齢		19	18	24	19	24	20	18
学歴		高卒	高卒	高卒	定時制 高卒	中退後 定時制 高卒	高卒	高卒
性別		男	女	女	男	男	女	女
地域		東北	関西	首都圏	関西	首都圏	関西	東北
現状		無業	アルバ イト	アルバ イト	アルバ イト	アルバ イト	アルバ イト	アルバ イト
高校 卒業 時	求人が少ない 希望職種求人なし・見込みなし やりたいことがわからない 学業不振・遅刻 進路相談なし 何もする気がなかった 学校外でアルバイト求職 アルバイトでいい 就職のための生活指導に反発							○

(進路をどう考えていましたか?) あんまり。遅刻とか、欠席が多かったんで、進路がみんな決まってるころにも、決まってくなくて。…先のことが見えなくて。…とくに自分がやりたい、あ、いいなあと思うことがあっても本気でやりたいとは思えなくて、でもみんなは進路が決まってる。…年末くらいから、卒業できるかできないかだったんですよ。…で、2月くらいで、学校が休みにになった時期に私が今度は来なきゃいけないって。補習、補習で。…だから、冬には卒業できないって言い切られたんですよ。

(今は、専門学校に行きたいということですが?) 美容師の専門学校で、高校3年の1月2月に行きたいなあと思ったんですけど、もうちょっと遅くなって。…何しようかなと思って。で、したいなって思ったことが見つかったら、もう遅くなって、フリーターしか残ってなかった。

<15cf・18歳・高校卒・女性>

(高校卒業後どうしようと考えていましたか?) そのときあまり考えてなくて、進学とかも考えてなくて、そのままあなあなのまま卒業しちゃった。…大学とか。高校のときとか結構、面倒くさいの感があったから、大学にこんなんで通えるのかなって。…遠かったというか、行くのがだるいというか。…(学校の先生は何か言ってました?) 言ってました。どうするの、どうするのって。(何て答えてたの?) どうしましょうねって。…何ていうか、そのときはほんとうに考えてなかった。ゆっくり考えていけばいいかなぐらいに。(ちゃんと決めないと進学できないとかいう気持ち?) 多分、あんまり考えたくなかったというか、何かそういう面もあったような。何か定まんないと行けないのかわからないけど、考えてない。周りもそういう子が多かったし。…そのぐらいには、何か動いてるだろうぐらいに考えて。

<16cf・24歳・高校卒・女性>

(高校の進路指導は?) あんまりなかったですね。どうするのかをみんなに聞いて、個人でどうするのと言ったら、それに合わせて、先生が多分。(就職関係については全く何もしなかった?) はい。(在学中のバイトを続けていこうということですか?) だと思ふ。(高校を出ても) 何も変わらない感じです。(学校で見せてくれる求人は魅力がなかった?) はい、あんまり。…就職という、イメージ的にも退職までとか…。ずっとやるというイメージがあるから、それはそんなに。全然わからんまますぐにいいものか。…これがやりたいということがなかったら。

<17cm・19歳・定時制高校卒・男性>

卒業する前は、ほんとにどうしようかなって。B高校って進路指導してくれないんで。要するに生徒の自主性を重んじるんで、生徒が例えば大学のこの学部を志望したいんだけどって言えば、先生も親身になって情報提供してくれたりするけど、要するに生徒が動かないと先生は何もしないんで。ほんとにどうしようかな、大学に行こうかな、専門でも行くか、いや、フリーターでもやるか、就職するかと。それで『〇〇（アルバイト情報誌）』とかあるでしょう。あれでですね、…4月から行ったんですよ。レタス農家に住み込みで、半年間△△（他県）に行って。…人と違うことをやりたいというか、（農業をやりたいかった？この場から離れたかった？）全部ですね。…自分の道とかを自分の手でつかみたい。

<7cm・24歳・中退後定時制高校卒・男性>

進路を決めるときに、服屋の店員になりたくて、「学校からの就職はせえへん」と、親にも先生にも卒業の大分前から言っていて、それで何もせえへんかったし、お父さんもそのときは別に。めっちゃあほやったから就職もできへんのちゃうかという感じやったし、就職前とかになったら化粧とか服装とかも学校でめっちゃ言われるじゃないですか。そんなのもうざかったし、就職をする気もなかったし、それは親にも言っていたから特に何をしろとは言われなかった。…服屋さんで働いている子から、服屋さんの面接は学校には来ないと聞いていたから。

<18cf・20歳・高校卒・女性>

（「バイトでもいい」と言うと、先生はどういっていた？）ちゃんと高校も出て、するんやったら就職したほうがいいって。…高校まで出てんねやったら、バイトじゃなくて、就職口はあるんやからって。（就職口はあったわけ？）多分。行けるかどうかはわからんけれども、学校に来ているじゃないですか。求人は来とって、就職する子はみんな、放課後とかに見に行ったりしていた。…（私は）見に行ってもない。（周りの子は結構就職した？）半々ぐらい。半分は学校からとかで就職して…。就職が決まっていない子は、その子らがずっと高校からやってたバイトが長くて、卒業してからも別にバイトでいいねんみたいなのとか、あともうすぐ子どもできてるのがわかってた子とかもいたから、働く気はなかったと思う。…（私も）バイトでいいと思っていたし、何年も働かんわ、2年ぐらいしたら結婚していると思ってて。…卒業して2年ぐらいは適当にバイトをして、2年ぐらいたったら結婚して専業主婦になってと思ってた。

<18cf・20歳・高校卒・女性>

（高校生ときの仕事の希望は？）やっぱり、販売とかしたかったんですよ。べつにコンビニじゃなくても、デパートだったりとかスーパーだったりとか。（販売の求人はあった？）ちょこっとあったんじゃないですかね、ちょっとよくわかんないんですけど。…まあ、高校にいる時点でコンビニのほうで働かないかという話が出てたんで、あんまりよくわかりません。

<19cf・18歳・高校卒・女性>

就職活動をしなかった高校生にも、いくつかのタイプが見て取れる。（14cm）は何もしたくないと、ただ、ただ、やる気を見せないが、このケースは出席日数が不足して卒業の見込みが立たず、「（高校で就職説明会は？）あったのですが、俺は出席日数が足りなくてそれに出してもらえなかった。（求人票は見えない？）高校では、全然」という状況であった。次の（15cf）のケースも同様で、卒業の見込みがつかない状況では、進路選択・就職のプログラムに乗れず、卒業後の進路について決まらないまま卒業だけすることにつながっている。

（16cf）も進路について全く考えていないが、このケースは卒業の見込みが立たなかったわ

けではない。親は進学を勧めていたというが、本人に全くその気がなかった。

(17cm) と (7cm) は何をすればいいのかわからないという気持ちが強く、そこから先延ばしの意味でアルバイトを選んでいることが感じられる。どちらも学校の進路指導にもっと多くを期待していたのではないかと思われる。

また、(18cf) と (19cf) は、学校に頼ることなく自力で、かつ、したい仕事であればアルバイトであるか否かにかかわりなく、探している。学校を通した斡旋には消極的だが、やりたい仕事に向かって自分で進もうという面では積極的である。

さて、就職活動をしないうち、あるいは、最初からアルバイトの就業機会を探すという行動は、進学や公務員受験など、高校卒業時に果たせなかった選択を浪人して再挑戦するためにしばしばとられるものでもある。そのまま大学等に受ければ、ごく普通の経路なのだが、ここで進学や受験から方向転換すると、アルバイトや無業で生きる青年になる。「浪人くずれ」とも呼べるフリーターである。

今回の対象者で、高校卒業時に進学や再受験を望んでいたものは4ケースだが、これらのうち、調査時点でも（就業しながら）再受験への準備をしているのは(20cf)のケースのみで、他の3ケースは、それぞれに進路希望を変えている。(ただし、(20cf)は在学中は就職希望であり校内選考で落ちてから進学に切り替えている。)

(21cm)のケースは親の支援が得られない環境で、新聞奨学生となり予備校に通うが、結局、学力が伸びず受験は断念する。コンピュータ工場での有期限の雇用から始め、これまで業務請負業登録など、工場内の有期限の雇用に多く就いてきた。他の2ケースは次のとおり。進路変更の先がアルバイト就業であったということだが、それぞれ積極的、あるいは消極的ながら、自分で選んでの変更であり、進路の選びなおしという捉え方も必要だろう。一方、受験準備と平行してアルバイトをする行動は、家計に進学を支えるだけの余裕がないことが背景にあった。環境が整わないために進学を断念せざるを得なかったという側面もあり、両面の理解が必要だと思われる。

(高等看護学校に落ちた後) …で、準看、受ける受けへんて言うてて、受けるわていうてたのに、準看(の入試)が卒業式のあとやったんですよね、テストが。卒業した瞬間、看護婦ていうのが、あの、今お金がほしいという現実が変わって、そのバイトしてる所、朝は入ってなかったんですけど、学生の頃は。入れるようになったというんで、毎日働き出して、お金が、その時点で初めて自分の手元に10万を越えるお金が入るわけじゃないですか。もうそれで納得してしまっただけなんですよね。(準看はうけなかった?) …一応予備校も行ってたんですよ、卒業してから。やっぱり、やりたいなーというんで。でも、その、初めはバイト先…立場上、上になってきて、自分がシフトとか全部組まされるようになってきたら、どうしても休みがもらわれへんくなってきて。予備校も辞めてしまっただけ。

<22cf・19歳・高校卒・女>

表 1-4 卒業後、再受験を目指した高卒ケース

対象者 I D		20cf	21cm	22cf	23cm
	年齢	18	31	19	21
	学歴	高卒	高卒	高卒	高卒
	性別	女	男	女	男
	地域	関西	首都圏	関西	関西
	現状	アルバイト	無業	無業	アルバイト
高校卒業時	家計の制約で非進学	○	○		○
	学業不振・遅刻			○	
	校内選考で落ちた	○			
	大学進学と平行	○	○		
	公務員受験				○
	専門学校不合格			○	
浪人から	学校外でアルバイト求職		○		
	受験のほかにやりたいこと アルバイトが忙しい		○	○	○

(家計の事情で大学進学を断念し、教師の勧めで公務員に志望変更したが受験に失敗して)先生から電話かかってきまして、「おまえ、学校で働く気ないか」とか言われて。…「え？何がですか」みたいな感じやったんですけど、「おまえ、公務員目指してるんやろ」みたいなこと言われて。…(理科の実験補助で有期限の採用をされたが、次の年も受験失敗)…2回落ちてるじゃないですか。もう、これは自分の天職じゃないなあと思ってしまったんですよ。で、…いつも行ってるブランドあるんですよ。そこの店長さんに「しゃべりうまいねんから、こういう業界入ったらええんや」みたいに言われて。そのとき何も思わなかったんですけど、でも服好きやしなあとか思い始めて。しゃべるのも確かに好きなんで、ちょっとバイトでやってみようかなって、そのころは簡単に思ってたんですけど。…楽しいなって思った。この仕事つきたいなって思いましたね。

<23cm・21歳・高校卒・男性>

2.4.2 就職活動をしない大学生

高等教育卒業生でも、就職活動をしないまま卒業していく者の増加が指摘されている。しかし、今回の対象者では、全く就職活動をしなかったケースは(44ef)の1ケースのみであった。このケースが就職活動をしていないのは、大学での学びの中に自分の方向を見つけ、次々と可能性を広げていく途上にあっただけだといえる。

(3年生の後半になると就職活動はしましたか?)それが、一切やっていないんです。…異文化関係のコミュニケーションがおもしろかったので、異文化トレーナーっていう仕事があるんですけど、そういうのになろうかと思っていて。そうすると企業ではないので、…私は、そういう先生が私のゼミの関係の学科にいるので、その先生に話を聞きにいったりですとか、仕事を見せてもらったりですとか、自分でやりましたね。…(ボランティアで)○○(海外)に行ってきて、そのあとに異文化コミュニケーション学会の世界大会があって、1週間くらいやってどっぷりつかっていて、やっぱりこれでしょうと思ってて。

<44ef・27歳・大卒・女性>

その後、職業として成り立つ方向ということで産業カウンセラー資格に関心を持ち、その受験のために派遣で事務職に就き、と正社員にはなっていないが、自分の方向を選んで着実に進んでいる。

全く就職活動に参加していない学生には、こうした自分のキャリアの方向を一般的な企業への就職以外に定めた学生も少なからず含まれているのではないかと思われる。むしろ、こうしたケースは次の世代を担う若者として期待していい存在ではないだろうか。

「就職活動をしなない」ことを心配されている学生は、こうしたケースではなく、おそらくもっと非活動的な学生であろう。今回の調査では、そうしたケースは、むしろ会社説明会にはいったみたというような、一定範囲の就職活動はしたが、途中で活動を停止したものに見られた。こうしたケースは、次の節で詳しく紹介したい。

ここでは、正社員としての移行経路に乗っていない学生のなかには、新しい方向を切り開く可能性を秘めた存在もあることを指摘しておきたい。

2.5 小括

この節では、中途退学や卒業時に就職活動をしなないなどの、新規学卒就職への経路から自ら外れていく行動をとったケースを採りあげた。まず、高校へ進学しないケースと高校を中途退学したケースについてみると、学校離脱には次の3つのタイプがあった。第1は、学業に価値をおかず、学校生活を支える価値は友人関係であり、行動を規制する学校を抑圧装置と感じるタイプである。彼らは、学業不振と学校への反発から学校から離れていく。友人関係は学校外にもつながっている。第2は、友人関係の形成が進まず学校に不適応を起こしたタイプ、第3は勉強に集中し高い業績をあげたものの先の目標につながらず（ここでのケースは国籍問題が大きな壁となって）挫折したタイプである。

離学後は、第1のタイプではお金を稼ぐ目的ですぐ就業する。友人からの誘いで就業口を見つけることも多い。ただし、就労上の規律や基本的な生活習慣が確立していなかったり、友人との遊びが生活の中心であるために、長続きしないことも多い。第2、第3のタイプは、すぐには就業に至らない。第1のタイプと異なり、音楽を目指したり、農業を目指したり、自分を表現するものとしての仕事を探す。経験も職業能力もない自分を意識して、戸惑どうケースもある。

高等教育での中途退学も、正社員就業への経路からの離脱につながる。勉学への意欲を失い単位をとれずに中退していくのだが、それには、①大学進学以前の進路選択に問題があり関心も適性もない学科に進学してしまったケース、②職業希望を持って大学・学科選択をしたが、不本意入学であったこともあり、周囲の環境になじめなかったケース、③学校の厳しい生活指導への反発、逆に、何の枠付けもない生活に孤立・孤独に陥るケース、などがあっ

た。中途退学後は、短期のアルバイトを中心にしている者が多い。背景には経験を広げ次の進路を探そうとする意識があると思われる。また、何らかの学校機関を使って、職業能力を身につけ再スタートを切りたいという気持ちを持つ者が多い。

卒業はしても就職活動はしていないケースは高卒者に多かった。こうしたケースには、まず、①単位や出席日数が不足して卒業の見込みが立たないために、就職プログラムにのれず、何とか卒業だけするという者がある。遅刻、欠席が非常に多く、学業不振も伴っていた生徒である。また、②卒業見込みは立っているのに、何をしたらいいのかわからないからと、就職も進学もしないケースもあった。何も考えていない、そのうち何か動いてくるだろうと、アルバイトにだけ就く。これに対して、③学校外で、就きたい仕事のためにアルバイトに応募するケースもある。ファッション系の販売職などは、学校への求人によるのではなく、アルバイトからの登用で正社員を採用する企業が比較的多いためのものである。学校を通した移行ではないが、むしろ他の経路での就職活動をしていると見るほうがいいのではないか。このほか、進学や公務員受験を再受験するために浪人をするが、途中で進路変更をし、その結果アルバイト就業になったケースもある。

3. 学卒時の斡旋不成立

3.1 就職できなかった高校生

次に、就職活動はしたものの、結局就職できないまま卒業することになったケースを見ていこう。

就職を目指して求人票を検討し、企業見学に行き、また応募するという行動をとりながら、就職が決まらなかったケースの背景にはあるのは、まず、学校への求人が著しく減少している事態である。東北地方の高校出身者では、全般に遅刻や欠席も少なく成績も良好な生徒が、学校の斡旋に乗りながら、結果としては内定をもらえず卒業している。「先生から『今年は一番少ない』って言われて『進学の方も考えとけ』って」(24cf) という指導にも、求人が減ってしまった学校の困惑が伝わってくる。学校側からの補足的インタビューにおいても、その減少が極めて著しかったことが指摘されている。また、そうした少ない求人にも「(どんな求人があるかは) 進路指導の方が聞いてくれて、みんなに紹介するという手はずだったんで自分の希望はあんまり出しませんでした。」(25cf) と、就職できる者を増やすために学校側は綿密な指導をもってあたっていることがうかがわれる。

(どういうところ面接受けましたか?) 事務系…2~3社。(事務じゃないと嫌だったの?) いやサービスでも良かったんですけど、情報処理で検定とかも受けていたのでそのほうがいいかなと。(どういう検定受けていたの?) 情報処理技能検定・ワープロ検定・簿記とか。(この求人は自分で選んだの?) いや先生のほうから。

<25cf・18歳・高校卒・女性>

表 1 - 5 就職できなかった高卒ケース

対象者 I D		24cf	25cf	26cf	27cf	28cf	20cf
年齢		19	18	20	18	19	18
学歴		高卒	高卒	高卒	高卒	高卒	高卒
性別		女	女	女	女	女	女
地域		東北	東北	東北	東北	関西	関西
現状		無業	アルバイト	アルバイト	無業	無業	アルバイト
高校卒業 卒業時	求人が少ない	○	○	○	○	○	
	家計の制約で非進学		○	○		○	○
	希望職種は要進学		○				
	希望職種求人なし・見込みなし	○		○		○	
	急いで就職することはない					○	
	学業不振・遅刻					○	
	校内選考で落ちた				○		○
	面接受けたが不合格		○		○	○	
	一次応募不調で活動休止				○		

(9月に入社試験受けましたか?) 受けようと思って夏季見学とかも行ったんですけど、仕事ははっきり男性で言うわけではないんですけど、仕事ができたらそっちのほうみたいな内容が。履歴書とかも書いてたんですけど途中で止めて。…印刷オペレーター。でも先生の話だとパソコンでできるっていうことだったんだけど、…会社のほうから「事務系だと思ってると違うかもしれないので見学に来ませんか」ということで見学に行ったらちょっと違った。…(その後?) 殆どみんなこう自分の(受ける)会社決まってるから、他は事務系が少ないっていうのもあって、なかった。…先生からは何個か紹介されたんですけど。…事務じゃないっていうのもあって。そんなに強く「事務じゃなきゃダメ」というわけではなかったんだけど、なんか「違う」というか「無理かなー」みたいな。…やっぱり9月に受けた会社が思ったところと違うということなんで、やる気がなくなったというか。

<24cf・19歳・高校卒・女性>

(高校で、求人票を見て) いろいろ考えたんですけど、やっぱりよく分からなくて。求人票とかみて「ここ受けてほしいんですけど」というと、(先生から) こう何かこっちの方がいいっていうか、ここはどういうとこかとか、条件とか色々聞かされて、多分、女は採らないとこだとか。そういうのがあって。…結局はもう全然受けなくて。…(先生が薦めてくれたところがありましたか?) はい。お菓子の製造とか薬屋さんとか。…それは(隣の) A市内だったんですよ、その薬屋さんというのが。通勤のことを考えるとちょっと無理かなって思って。駐車場も無かった所なんで自分でとるか、それか電車とかバスとか使って行かなければダメだという所で。で、それを考えると給料からやっぱり毎月5千円・6千円引かれていくことを考えると。

<26cf・20歳・高卒・女性>

(求人票を見てやりたい仕事は?) ケーキ屋さんとかあったんですけど、倍率がすごく高くて、推薦とかも通れなくて。で、結局受けたところがホテル関係(の接客)だったんです、全部。(接客だったの) 心配なとこあったんですけど、でもやっぱり挑戦してみるのもいいかなと思ったし、いろんな人と接してみたいとも思ったんで。…(ホテルを受けたけれど決まらず) 自分で、求人とか見て探そうかと思ったんですけど、なんか結局アルバイトになっちゃって。

<27cf・18歳・高校卒・女性>

(25cf) のケースは、商業系学科卒で検定資格も多く持っている生徒で、学校側が事務職への斡旋を積極的に行ったが、合格できなかった。また、(24cf) のケースでは、学内の成績は良好で学校推薦を得て印刷オペレーターに応募する予定でいたが、夏休みの会社見学で、仕事内容に誤解があって(学校で修得した)パソコンが活かせる仕事ではなかったことがわかり、応募せずに断念する。(26cf) も成績の良い生徒だが、応募先がなかなかきまらなかった。担当教員は採用可能性を吟味し、相談にも時間をかけているようだが、結局、卒業まで一つも採用試験を受けていない。(27cf) も、応募したいところは学校推薦がもらえないし、その後、応募はしたが内定はもらえなかった。就職活動をしなかった生徒と違い、高校の指導に乗って就職活動をしているこれらのケースは、出席状況も良好だし、検定資格の取得などでも努力してきた生徒である。

また、次の(28cf) は、都市部のケースだが、専門学校進学希望があって応募が遅れた。進路指導のスケジュールに従った推薦・応募の時期を逃すと、十分な求人がないだけに就職のチャンスは非常に小さくなる。

このケースもそうだが、学校内での斡旋が難しくなった段階でハローワークに直接生徒を連れて行くなど、ハローワークのサービスを利用することも活発に行われている。学校とハローワークの協力関係のあり方は地域によって異なるが、求人の少ない地域、求人の少ない学校ほど緊密な連携をとっていると思われる。

(高校卒業後の希望は?) 料理関係の専門学校に行きたかったんですよ。でも、親に反対されたんですよ。お金かかるじゃないですか。…ほんまに料理の勉強したいんやったら、どこかに、見習いで就職か何かして、勉強して調理師の免許とりなさいという感じ…それもいいかなって思いましたね。働きながら勉強もできるしお金も稼げるし。(そう思ったのはいつぐらい?) 3年の終わりぐらいに、やっと、もうしょうがないかなという感じでしたかね。(卒業まで時間がない?) 全然ないですね。…(3年の1、2月ぐらいに) 学校から、就職できなかった組といったらおかしいですけど、できなかった子らで、まとまって、(ハローワークに) 先生たちが連れていってくれたという感じ。…一応面接には行っている。(どんな仕事?) サラダを売る関係。百貨店とかでサラダを売っているじゃないですか。…見事に落ちました。…1週間か、それぐらいしたら連絡しますみたいなんやっただけで、全然連絡来なかったから、「先生、どないなってんねん。ちょっと聞いて」って聞いてもらって。

<28cf・19歳・高校卒・女性>

これらのケースは卒業後の状況は、(25cf) は一般の求人広告でホテルのアルバイトに就き週6日働いている。正社員への希望があるが、「(ハローワークに行って) 探してたんですけど、20歳からって分かったんで…」と20歳以下では応募できる正社員の求人が少ないので、しばらくはアルバイトでと思っている。(24cf) は応募する意欲をなくし「あんまり焦りはなくて、自分のやりたいこと見つけようかなって、他に勉強したいの見つけて…」という気持ちで卒業し、現在は就職には自動車免許が必要だと思い自動車学校に通っている。(26cf)

は、学校の紹介で地方自治体のインターンシップ事業に応募し、それを契機に、現在のパートでの事務職に就いた。1日5時間なので条件がもっといいところがあればとは思いますが、事務の仕事内容は気に入っていてしばらくは続ける気持ちになっている。正社員(27cf)は、卒業後、求人誌で探した個人経営の製パン店にアルバイトで入るが早朝からの仕事に体のバランスを崩して辞めて、現在求職中である。(28cf)は「そんなに焦って就職しても自分のやりたくない仕事とかやったらすぐ辞めちゃうと思うので」と、在学中の回転寿司のアルバイトを続ける事にした。ただし、現在は母親の体調が思わしくないため辞めて家事を主にしている。

これらの例でアルバイトに就いた者は、基本的にまじめな態度で就業している。短期で辞めた(26cf)のケースも、次のとおり就業への前向きな態度が感じられる。

(アルバイトをして良かったことは)なんか、やっぱり職場って人間関係すごい大事じゃないですか。入ったときからすごいみんなやさしくしてくれて、で、やっぱり自分の仕事をすごいまかされるじゃないですか。で、自分ができないと、みんなに迷惑をかけてしまうってのがすごい分かったんですよ。で、すごい責任感もでてきて、そういう面ですごいよかったなと思いますね。

<27cf・18歳・高校卒・女性>

なお、(20cf)のケースは、当初は就職希望があったが校内推薦を取れず就職をあきらめ、平行して考えていた大学進学に志望を絞った者で、現在は卒業校での臨時の仕事に就きながら進学準備をしている。

3.2 就職できなかった高等教育卒業者

高等教育卒業者にも、就職活動はしたが就職できなかったという者は少なくない。

就職できなかったケースの特徴として、まず専門学校・短期大学の2年課程の場合で、2年目の卒業制作などに時間をとられて、あまり就職活動に時間を割けなかったというケースである。このうち、学校での専門領域に対応した一定範囲に応募先の職種・業種を限定して就職活動をした場合(30ef)では、卒業後も同じ領域で長く就職活動をしており、また、現在就いているアルバイトも同じ領域の仕事である。専門職としてのキャリアを求めておれない方向性があるケースだといえる。

(就職についてはどう考えていましたか?)短大の2回生はみんな、それは考えられない状態、忙しくて。卒業、普通、論文とかなんですよ。でも、ファッション科だから作品。ファッションショーするから。それに1年つぶれるから。…うん。余裕がある子は、就職活動は多分してたやろうけど、そんな多分できてないと思う。…就職はとりあえずしなかった。

<29ef・24歳・短大卒・女性>

表 1-6 就職できなかった高等教育卒業生ケース

対象者 I D		29ef	30ef	31ef	32em	33em	34ef	35em	36em
	年齢	24	24	24	28	27	24	25	25
	学歴	短大卒	専門卒	短大卒	大卒	大卒	大卒	大卒	大卒
	性別	女	女	女	男	男	女	男	男
	地域	関西	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏
	現状	アルバイト	アルバイト	無業	アルバイト	アルバイト	アルバイト	アルバイト	無業
高等教育卒業時	職種絞って就職活動		○	○	○	○	○	○	
	就職活動よりやりたいこと							○	○
	応募しても採用にいたらず	○	○	○	○	○	○	○	○
	個人的トラブル	○							
	どうしても就職とは思わない			○			○	○	
	同級生も就職できずアルバイト浪人・留年で年齢高い	○	○	○		○			
公務員受験			○	○	○				

(2年生になると就職活動するんですか?) するんですけど、みんな卒業制作とかがあってなかなかそれだけにみたいにはできなくて厳しかったですが…あまり就職活動はしてないです。2年の途中は…(就職する気がなかったというんじゃない?) 時間がなかった。就職活動しなきゃというか、就職活動って何みたいな話をそこで、まだ何もわからないみたいな、周りの友達もあまりそういう話はしなかった。…(エントリーシートとか書かなかった?) 絶対無理だけど、おふざけっぽくみんなで大きいところへ出してみようみたいなところですね。そういうの1回ぐらい。(この先どうしようみたいなことは?) 最後ら辺で、ちょっと考えなきゃなと思ったんですけど、そこまですごい深刻には考えてなかった。

<30ef・24歳・専門学校卒・女性>

(短大を出るときに就職活動はしましたか?) …短大のときに受けたのは2つぐらいで、あと、公務員試験を受けたんですけど、二次試験で落ちました。(どっちのほうか本命?) ちょっとよくわからない。とにかく何か就職できればいいかなと思って。…(就職活動は大変でした?) そんなに頑張ってたので、大変って感じは…。(会社を回ったりとかは?) そういうのは全然ないです。(受けた2社はどうやって?) たまたま求人広告というか、募集を見たので応募した。1個は農協と、地元の信用金庫。

<31ef・24歳・短大卒・女性>

前2ケースは、専門教育のさなかで就職活動は後回しのケースだが、(31ef)のケースは、専攻は日本文学で2年次には就職活動に入る環境にはあった。しかし、次のとおり、就職活動への意欲はそれほど高かったわけではない。

(短大の就活のときに、ほかの人は結構バリバリやってた感じ?) 私の友達はバリバリやってなかったです。(それはどうしてかな?) どうしてなのでしょう。私の周りで、卒業した時点で就職がちゃんと決まっていた人っていないんですよ。みんなバイトとか。(そんなにすぐ仕事を見つけなきゃっていう雰囲気ではなかったんですか?) はい。

<31ef・24歳・短大卒・女性>

どのケースも、「みんな」「周りの友達」は同じように、時間に余裕がなかったり、意欲的

でなかったりと、同じような行動をとっている。短大・専門学校卒業生にのみの特徴ではないが、友達、仲間集団の行動が、相互にそれぞれの就業行動に大きく影響を与えている。

なお、(31ef) のケースは、卒業してしばらくしてから週3日に事務のアルバイトに就き3年ほど勤めたが、その後仕事が減ってしまったので退社する。今は求職中だが、パートやバイトと正社員との差は、あまりないと考えている。「もし結婚とかしても、子供を保育園に預けて、バリバリ働くわというタイプじゃない」という将来展望がこうした意識、行動の背景にあるのだろう。

4年制大学卒業者のケースで、卒業までに内定が得られなかった理由としては、やはり職種・業界を絞った就職活動が挙げられるが、その絞込みは専門学校・短大と違って、専攻学科に直結する職種・業界ではなかった。本調査でみられたのは、公務員試験や外交官試験などの資格試験を目指したケース、さらに応募倍率の高い出版社などに絞ったケースがある。

4年生のときに外交官の試験を受けましたね、ノンキャリアのほうですけど。…大学時代（浪人と留年）でつまづいちゃったということがあるので、民間のほうで就職活動しようというのがあまりなかったんですよ。…民間はやめて、じゃ、公務員でやろうと思って、外交官、ノンキャリアのほうを2回受けて、2回受けて残念だったんですけど。…（外交官になろうと思ったのはなぜですか？）当時、自分なりに就職について思ったということは、何か取り柄がないと難しくなっているなと思ったんですよ。派手な生活とかは全然思ってなかったんですけど、ノンキャリアのほうだったら、いろいろなところに、どこかわかりませんが、例えばアフリカならアフリカのどこかの国に行かされて、言語を修得してとかそういうことがあるじゃないですか。自分なりにツテを使って、元外交官、ノンキャリアだった人の話を聞いたりとか、あんまり勧めないよということをおっしゃったけどもね。でも、その人もやっぱり今、外務省をやめてからロシア語の通訳をやっていると言ったし、やっぱりそれだけのすべはあるんだなと思ったので。…専門性ということかな。それにあこがれたのかな。

<32em・28歳・大卒・男性>

（就職活動は）3年ぐらいからですね。…食わなければいけない、何しようか、営業は嫌だと。営業こそ日本の企業の一番悪い部分を温存しているところがある。…そこで今度は出版という。あれかな、大手出版社は嫌ですから、専門書をつくっているような小さい出版社を回ろうかなと思って、それが大学3年の2月ぐらいかな。…40社ぐらい受けましたね。あちこち。公的な仕事はしたかったし、そうすると〇〇公団とかも受けたりとか、小さい何とか財団法人とか、それで何だかんだで40社ぐらい。出したのが80社ぐらい。そこでさっき言った鉄道関係、好きでしたからね。…冬まで頑張りましたけどね。もう1月越えて無理だと。何もないし…。（それでどうされたんですか？）それで…六本木の学生職業相談施設とか、そこに行って、相談員の方としゃべっているうちに、ああ、公務員というのもいいな、そこで初めて公務員が出てきたんです。確かに（ゼミで）ジェンダー論とかやってて、ある種、ああいうものというのはお金というよりもむしろ政策だったり制度だったり、そこともリンクしてくる。確かに鉄道が好きだった、観光も好きなんです。まちづくりという、交通政策とかそういうキーワード。何かおれに向けてそうじゃないかと。そうすると市役所とかいいなと。市役所を受けてみようかなと思って市役所。公務員の中でも特に市役所を受けて、科目も少ないから。…（卒業してから）予備校に週1回行ってました。何もわからなかったですからね。そこに行って勉強してという。〇〇市役所を受けたんです。最終までいったんです。やっぱり面接。

これも面接だった。落ちましたね。

<33em・27歳・大卒・男性>

(大学時代の就職活動は?) 私は出版社を数社受けました。(出版社だけに絞って?) 出版社はすごく難しかったので、(後には) 普通の事務職で2社ぐらいだと思います。(出版社は大学に入る前からの希望ですか?) いや、なかったですね。就職活動を始めるというぐらいになってから…。(どうして出版社がいいと?) 出版社にいるといろいろな人に会えたりとか…。ほんとうに漠然とした考えでした。…(就職活動はいつごろからいつごろまで?) 3年生の12月(がはじめて)、それから4年の夏過ぎにも事務職とかを受けたと思います。だから秋ぐらいまでです。(結構頑張った?) あんまり頑張っていないです。…そんなにリサーチとかもなく、出版とって気楽に始めてしまって…。だから、気持ちがすごくなえていましたね。それと、やっぱり出版を目指したい人というのは、ほんとうに前々からそういう出版社に就職するためのセミナーとかにちゃんと通っているのと勉強をしているのに、自分はやってきていないし、自分はそこまでして出版に行きたいという気持ちがあるのかどうかという疑問がすごく出てきましたね。

<34ef・24歳・大卒・女性>

それぞれケースが、それぞれの思いから、公務や出版業への絞込みを行っている。(32em)のケースは、在学中に半年海外を放浪したこともあり単位が取れずに留年、それに加えて入学前に2年の浪人期間がある。こうした経歴が民間企業への応募を早い段階であきらめさせていると考えられる。(33em)のケースは、社会と自分の関係を考え続け、接点を広げながら就職活動は積極的に行っている。内定に至らないのは、面接での自己表現が苦手であるから、そして、それが苦手になった背景には、大学でのジェンダー論のゼミでの「頭でわかってても感情でわからないという」議論に、発言できなくなる自分を感じてきたことがあると自己分析する。

(34ef)のケースは、漠然とした面白さを出版に感じでの絞込みだが、事前の準備不足に気づき、次第に就職活動への意欲を失っていく。自分と仕事とをどう関連付けるのか、むしろこれ以降に悩み始める。

就職内定を得られない大学生の一つのタイプとして、「就職」を目前にして働くこととは何かを考え、その一応の結論として業種・職種の絞込みを行うが、求人が減少した中で、その現実的接点がうまく設定できないというものがあることが考えられる。

次のケースも、働くことそのものをどう自分の中に消化するのか、学生時代の就職活動をひどく限定的なものにすることでその段階の自分との折り合いをつけ、(その折り合いのつけ方では産業界からの了解は得られず) 就職をあきらめ、海外放浪で自分を見つめようとしたものだろう。

(育ててくれた祖母がなくなってから)、何か就職とかも、大学卒業したら就職しなきゃいけないのかなみたいな疑問を感じるようになって。…すごいいろいろ考え始めた。別に大手に入らなくてもいいんじゃないか。それまで当たり前だと思っていたことを、ちょっと考えるように(なった)。(就職活動は?) 何かやりたい仕事だったら、いいかなっ

て。そのときは、映画は好きで、スノーボードがすごい好きだったので、映画の配給会社と〇〇スポーツにエントリーシートを出して、でももうそのぐらいしかやらなかった。…あと、カード会社。それが何か、海外研修ある、みたいな感じで。…（結果は？）それはもう全然だめで、エントリーシートからだめだったから。で、もう坊主にしましたね、とのときに。…「もう就職活動いいや」みたいな感じで、丸ぼうずにして。…（大学の就職課で情報とったり相談したりは？）してないですね。何かペラペラとOBがいる会社とかは見たりしたけど、相談とかもほとんどしなかった。…（就職をやめてどうするつもりだったの？）もう、あれ、海外…。多分、もう大学3年の冬ぐらいかな。海外行きたいみたいなことは、家族に言って、親は、行くんだったら、休学して留学しなさいって言ったんですけど、何かそういうんじゃないんだよなと思って。…卒業してから行くみたいな感じで、卒業して。

<35em・25歳・大卒・男性>

これらのケースには、自分の生き方、働き方を正面から考えて進路を見つけ出そうとする生真面目な方向性が見て取れる。ここでは、「周りの友達」や「みんな」の行動は意識されていない。就職活動を限定的にしているのは、青年期の課題にまともに向き合う過程での行動であるためだと思われる。

これに対して、次のケースは業種については「新卒採用ならどこでもいい」と業種や職種にはこだわりを見せず、一方で、地域や保険・年金、労働組合といった働く条件面を重視している。

（大学を卒業する前には就職活動はしましたか？）大学の就職課で一応あっせんしてくれたところを、自分の意思ではないんですけども、やっぱり新卒のうちにやっておいたほうが、全然あれじゃないですか。…（何社面接を受けた？）2社しか。だから就職課の人に、大学のほうであっせんしていただけるようでしたら、もう喜んで採用試験を受けさせていただきますと、就職課長の方に言ったんです。（自分で面接会・会社説明会とかにはほとんど行ってない？）あんまり行かなかった。…新卒でどこでもいいという考え方もあったんです。もう新卒でもし採用してもらえるんだったら、どこでも業界・業種は問わない。（機械工学専攻だから、求人はあったんじゃない？）そうです。ちょっとあまり乗る気にならなかったのもある。でも、何かちょっとそこがあいまいなんですけれども、待遇とかを見てみるとちょっとだめだなと、やっぱりもって1年かなみたいなところだったので、やっぱり長続きできるところがいいですね。多少はちょっと慎重になるところもあります。そういった幾らどこでもいいところだといっても、首になったらだってキャリアにもならないですよ。それに次の就職のためにやっぱり不利になってしまうので、（受ける気になったのは？）やっぱり東京都近郊とか…あと、福利厚生とか、労働組合があるといったとか、…健康保険、雇用保険とか社会保険、厚生年金とか、そういった4つがちゃんとそろっているところとか。そういった数字とか見ると、意外とないところもあるんですね。

<36em・25歳・大卒・男性>

このケースは、最初の3年次は卒業の見込みが立たないため就職活動に入れず、留年して必要単位をとってから、学校での斡旋に乗れるようになった。「どこでも」というのはその焦りもあると考えられる。結局2社とも失敗し、そのまま卒業だけする。そこで、「仕事選ぶのって重大な選択じゃないですか。なので、何かいろいろな仕事を経験して、そこから何かち

よっと仕事の楽しさが見つければ、そういった仕事につこう」と、アルバイトでの就業を選ぶことになる。

この行動まで含めれば、これらのケースに共通することとして、最初の「就職」の重要性を意識して、将来にわたる重要な選択であるだけに、自分の生き方とどう折り合いを付けていくのかを正面から考えていることが指摘できる。そのプロセスと就職活動が平行している状態だから、なかなか正社員就業に至らない。

各ケースの卒業後の状況を確認しておくとして、まず、(32em)は、いったん郷里に帰って社会保険労務士資格のための勉強をし、取得のめどがたってから上京して就職活動をしている。就職活動をとおして、資格をとっても実務経験がなく年齢が高いので良い条件での就職は難しいと言う認識を持ち、また、違う学校にかよっての資格取得を考えている。(33em)は、その後郵政の試験に合格して郵便局勤務するのだが上司と折り合わず短期で離職、次に、知人の個人経営企業を手伝うがこれも経営方針に納得できず離職し、現在は、公務員をあらためて目指しての勉強と大手スーパーでのアルバイトをしている。アルバイト先には正社員登用が制度化されており、こちらの方向も考えている。(34ef)は、卒業前に就職活動を断念して「おもしろそうだ」とテレビ局のアルバイトに。フリーターでもいいと考えていたがあまり日数が入れないので、事務職希望で就職活動を再開するが決まらない。では資格をと簿記の勉強をして、資格取得の見込みをつけてハローワークで就職。そこで「本当にやりたいと思っていれば大丈夫」と励まされたことが、逆に「本当に自分がやりたい仕事はどのようなのか」とまた、自問を始めてしまった状態である。(35em)は、卒業後、パチンコ屋でアルバイトをしてためたお金に親からの借金を加えて、ニュージーランドで1年間ワーキングホリデーを過ごす。帰国してからは飲食店でのアルバイト。親に申し訳ないと、何とか就職したいと思っているが、「じっくり考えて…就職できたとしても半年とか1年だったら意味はない」と情報収集の段階だという。(36em)は、卒業後はテーマパークで9ヵ月アルバイト、その後インターネット接続会社での電話相談の仕事などアルバイトを転々とし、現在は、あと1ヵ月で26歳になるという年齢に恐怖感を感じながらヤングローワーク等で就職活動をしている。

3.3 小括

本節では、学校卒業段階で就職活動をしたにもかかわらず、不調に終わり、アルバイトや無業になったケースについてみた。

高卒者では、学校内での成績や出席状況の良い生徒が学校斡旋プログラムに乗っているのだが、地方部では求人減が著しく、就職できない状況があった。また、都市部でも就職志望のタイミングが遅いなど、プログラムに乗るタイミングを失すると就職できない状況があっ

た。卒業間近には、直接ハローワークに行ったりと活動レベルを高めているが、20歳未満で応募できる求人は少なく不調であった。卒業後は、出勤日数の多いアルバイトでまじめに継続的に就業しているケースが多い。公的機関での若者向け有期限雇用のプログラムは有効で、これを契機に就業チャンスが広がっている者がいた。高校の就職斡旋によって活動した生徒は、勤勉さを備えているケースが多く、アルバイトに就いても勤勉な様子が見える。

短大や専門学校で2年課程の卒業生では、卒業制作などの2年次の専門教育と就職活動を両立させることが難しく、就職活動が不活発だったケースがある。こうした場合、学校での専門を生かした専門職への希望が強いので、卒業後も方向性のあるアルバイトをし、専門職への就職活動を続けている。また、専門職に直結しない課程や本人が特に専門職での就職を望んでいないケースでは、(事務職求職となり)就職できないことが珍しくない状況になっている。学校の友人、仲間集団の行動が本人の行動に大きく影響を与えている。また、専業主婦志向もあって、アルバイトに就くことに抵抗がないケースもあった。

4年制大学卒業生では、自由応募の慣行の中で、業種・職種の絞込みをどう行うのが難しい課題になっていた。一斉一括採用のタイミングに乗る「就職」の重要性を意識しており、それだけに、就職と自分の生き方とどう折り合いを付けていくのかを正面から悩んでいるケースが多い。その時点での自己認識・考え方にしたがって業種・職種の絞込みをおこなっているのだが、現実的体験不足もあり、現実的な労働市場とのすりあわせが難しい者もいる。また、大学入学時点で浪人し、在学中に留年し、と複数年の遅れを感じているケースで、公務員や資格職業への志向が強くみられた。移行のいずれかのタイミングで乗り遅れることが、(民間企業における)一斉一括採用、入社年次による人事管理において不利になると感じ、こうした志向につながる面も考えられる。

4. 早期離職

次に、学卒就職したものの短期のあいだに辞めて無業やフリーターになったケースについてみる。これも高校レベルと、高等教育レベルに分けて検討する。

4.1 高卒就職者の早期離職

就業準備不足

早期離職した高卒就職者のうち、最初の(37cm)のケースは、入社式の日取りを聞いていないと入社せず、そのまま連絡を採ることなく、辞めてしまっている。(38cf)は体調を壊してということだが、4日間でやめている。最初の職に就いたともいえないあまりに短期の離職は、背景に求人が少ない中での選択で不本意なところもあるだろうが(さらに、(38cf)の健康問題の背景は不明だが)、生徒の側に就業への準備が十分できていないことに問題があっ

たケースだと思われる。なお、(37cm) はその後、ハローワークに求人を見に行っているが、結局、今は友人の誘いでカラオケ店でアルバイトをしている。(38cf) は、「正社員・パートって別にこだわらないで、とにかくなんか自分がしたい仕事があったら、入れたらラッキーぐらい、しか思っていない」と「仕事を探したり探さなかったり」という状況にいる。

表1-7 早期離職した高卒就職者のケース

対象者ID	37cm	38cf	39cf	40cm	41cm	42cm	43cm	45cm	46cf
年齢	19	18	19	19	22	24	20	24	19
学歴	高卒	高卒	高卒	高卒	高卒	高卒	高卒	高卒	高卒
性別	男	女	女	男	男	男	男	男	女
地域	関西	関西	関西	関西	関西	首都圏	東北	関西	関西
現状	アルバイト	無業	無業	アルバイト	アルバイト	無業	無業	アルバイト	アルバイト
就職先	機械部品工場	印刷会社	金物製造卸売り	日本料理店	日本料理店	土木建築	トラック運送業	自動車部品販売	美容院
就業期間	0日	4日	2ヶ月	3ヶ月	1年半	5ヶ月	10ヶ月	3年	1年2ヶ月
正社員就職先離職	○			○	○		○	○	○
不本意就職先									
長時間労働				○	○		○		○
孤立的職場				○			○		
入社式知らず	○								
上司とのトラブル					○	○		○	○
上司からの暴力						○			
勤務地変更(住居移動)				○	○				
バイトのほうが楽しそう					○				
勤務条件が違っていた									○
大卒との格差								○	
仕事がこなせない			○						
仕事内容あわない			○						
体調不良		○							
経営不安(やり直せるうちに)					○				
業界への幻滅									○

(高校在学中、就職活動は?) しました。…職種っていうのが、ほんまに全然なかったんで、仕事選ぶということもできない位でしたね。「どれがいい」というのがないんで。…(受けたんですか?) 受けました。…近くて、土・日休みでという感じ、ほんまに楽なことという理由で選びましたけど。…受かってたんですけどね。入社式の日取りとかの情報がなく、「あったんや」思うんですけど、学校が忘れたのか、僕が忘れたのか分からないですけど。で、そのまま。(入社式にいかなければ、学校から連絡はなかった?) 一回電話かかって来ましたね、学校から。…「あやまりにいいか」とか言われたんですけど、そんな、「あやまって入るぐらいやったら、もう辞めとくわ」って、会社辞めました。

<37cm・19歳・高卒・男性>

ハローワークも、あの学校から、最終的に、なんかみんな、就職の子が行くっていうのがあって、そこに行って、見つからなかったらまた後で自分らで探してみたいな。…(その時はいい仕事あった?) あったりなかったり、人が多かったり、で後で行きました。(受けに行った?) はい。…受かったんですけど、受かって働き始めたんですけど、なんか、急に体調が悪くなって、なんか、辞めなあかんかったような感じで、辞め

てしまって、ほんとは… (仕事の内容は?) 印刷の、こう点検みたいなの。…正社員でなく、研修があって、期間があって様子を見て、できそうかできへんか、を向こうの人が決めるみたいなの。(続けたい気持ちはあったのかな?) 続けたかったけどどうしても辞めなくてはならなくて…辞めてしまってまた探さなあかんって感じで、うーん。(期間はどれくらい働いたの?) 4日間しかいなかったです。たった4日間。

<38cf・18歳・高校卒・女>

仕事内容が合わない

次のケースも2ヵ月と短期の離職である。このケースは営業事務の仕事内容が自分で無理だと感じての離職で、事前の職場見学があれば、本人が確認できたことではないかと思われる。

学校紹介みたいなの。就職した。(どんな仕事?) 仕事は営業事務でした。…パソコンと電話と、あの、なんかいろいろ伝票とか、発行とか、なんかいろいろ。…お客さんを担当するってことになったんですよ。…「今度からは私がやります。よろしく」とかゆった後にポンっとやめられへんから、その前に、あの、まあやめようということで。(やめたのは何月ぐらい?) 5月です。…3月の末ぐらいから研修が始まって、…けっこう初日からへんから、「こりゃあかんわ」って思いました。…電話とか、「あつ、これは私はやっていけるもんじゃないなあ」って。…なんかこういろんな、聞いてたら、なんかすごいなんっていうか、うまいこというじゃないですか、お客さんに。そういうのが私、ちょっとあんまり。なんかうまくなくて、なんかいつてる自分も嫌やし、とかなんか、とにかくなんか無理とか思ってた。

<39cf・19歳・高校卒・女>

勤務地の変更と仲間集団

次の(40cm)のケースも在職期間は3ヵ月と短い。勤務地の変更と住み込みで働くという勤務条件の変更を提示されてやめている。この場合は労働条件の変更という以上に、「遊び仲間」を非常に重視する若者側の価値観と、職場サイドの「友達と縁切らなあかん」という方針との対立が大きい。個人経営の小さな職場で、職場での仲間集団が形成できない環境において、在学中からの遊び仲間の存在は、若者にとっては心の支えともいえる重要な人間関係であろう。一方、職場からすれば、その遊びのために仕事に身が入らないとマイナス要素にしか写っていない。職場が期待するプロへの覚悟という意味では職業人としての準備不足ではあるが、同世代の仲間集団が形成できない孤立的な職場で職業生活を始める若者の心情には配慮が必要だろう。本人は、中学時代から調理師への関心が強く、現在のアルバイトもスーパーの売り場で魚をさばっている。将来は食べ物屋を持つことが夢だという。

また(41cm)も、離職のきっかけは〇〇(他県)への転勤命令である。このケースでは、就職先選択時にほとんど何も考えず、「寮がある」という条件を満たす求人で、求人一覧表の最初に出てたところに、それだけの理由で応募してしまっている。1年半と長く続けてきたが、「大事なことを全く考えていなかった」と自分の進路選択を反省している。この時点で転

勤命令をうけて動揺し、さらに、アルバイトをしながらバンドにかけている友達が楽しそうに見えて、離職を決意している。やはりここでも友達と会えなくなる「転勤」は受け入れがたい条件になっている。このケースのその後は、別の友達の誘いでガードマンをしていたが、いったんは正社員で〇〇会社に就職した。が、経営状況に不安を感じやめて再びガードマンのアルバイトに就く。今は「一生面倒見てくれる会社を探したい」。友達が就職して、焦りを感じて求職活動をしている。

(就職先は?) 個人経営なんですよ。結構、繁盛したところで、お医者さんとか、そういう人らが来るような。…(お休みは?) 月曜日。最初はそれは嫌やったんです。仕事が終わってから遊ぶの、しんどいじゃないですか。(3ヵ月でやめたのはなぜ?) 住み込みで違うところで働けいう感じで言われたんですよ。…もう、強制的に行きみたいな、ほんとに聞いてなかったんですけど、最初、面接のときに3ヵ月は見ると、それで使われへんかったら何か違うところへ行かすみたいなことを言うと思ったんですよ。…その店に一遍連れて行かれたんです。…今日からでも来いみたいな、言われたんですよ。荷物は今度持って来いみたいなんで、それは嫌やったんですよ。友達と余計遊べなくなるじゃないですか。Aいうたら通える距離なんやけど、最初から住み込みでって言われたんですよ。…やる気があまり見えへんと言われたんですよ。で、家帰って、一遍聞かれたんですよ。友達ともそんな。それじゃあかんとか何か言われて、友達と縁切らなあかんとか言われたんですよ。そのために住み込みで働け言うて。嫌やったんでやめた。

<40cm・19歳・高校卒・男性>

(高校での就職先決定は?) 就職組やったんですけど、夏休みの登校日というのが最終決定か何かだったんですけど、その日忘れてて昼過ぎまで寝てたんです。M先生に電話されて、就職せんのかって。…友達とかすごいせかされてて、僕、就職するときは家を出ていけと言われていたんです。寮のあるようなところに行って、出ていきなさいと言われていたんで、先生に寮があるところを探してますみたいなことを言って、寮あるところで一番のページで、上から、あっ、寮と、一番最初に入っていたこれという形で決めちゃったんです。…(料理店に1年半勤めたあと、なぜやめたのですか?) 〇〇(他県)の店に行けと言われてたんです。そのときに確信しました、嫌やと。絶対嫌やと思いました。…(何がいやで?) △△(地元)を離れるのは話にもならなかったです。そういうことを考えてたんで、将来、ずっとやるんかな。初めての就職で、大事なことも全くちゃんと考えてなくて、その1年半ぐらいでやっと気づき出したときに、ちょうどタイミングでそう言われたんで。考え出したときに、あっ、やらんわってすぐわかったんです。…〇〇(他県)に行くと言われる前に、…久しぶりに仲よかった友達と会って、その子がバイトしながらですけど、ものすごい自分のやりたいことをやってて、楽しそうに見えて、ああ、いいなと思ってた矢先に〇〇(他県)に行けと言われてたんで、胸張って嫌と言いました。(お友達は何をやってる子なんですか?) バンドやってましたね。楽しそうでした。

<41cm・22歳・高校卒・男性>

職場の暴力

次の(42cm)は「何をしていたか分からない」ことから親のツテで土木建築の職場に入るが、ここで親方から暴力的な指導を受け挫折する。暴力が離職の引き金だが、選択時の方向性のなさが、背景要因にあったのだろう。離職後、この失敗のダメージを引きづってしばらく仕事につけない状態であったが、その後レンタルショップのアルバイトに就く。接客が合

わないと思ってやめ、さらに無業の期間があって、後に食品仕分けのアルバイトに。仕事が少なくなったため辞めて、今は、求職中である。

(高校のときの進路指導は?) 進路に関しての指導って、特にね…。ほんとになかったように思いましたね。…(進路指導室はあった?) ありました、ありました。そこに学校の求人っていうのが。そこから自分が見つけて行って。…そんな感じでしたね。ただ、やっぱり、…自分は就職っていっても何やっていいかわからなくて、何の仕事を見つけていいか、探していいかもわからなくて。(先生からのアドバイスとかはなかった?) 特になかったです。僕自身も先生には、特に相談はしなかったですね。…(親に)自分は何やっていいかわからないんだけど、どうしたらいいかなみたいな相談を親に持ちかけて、そうしたら、じゃあ、知り合いの土木の会社で仕事あるから、ちょっと行ってみてやってみるかという話になって、最初についたのがこれだったわけです。…(それを5ヵ月でやめたのは?) まあ、仕事ですから、もう、きつい、つらいということは我慢できるんですよ。仕事は多分、どんな仕事でもきついでしょうから。ただ、教えてもらおう、上の親方っていうかが、とても厳しい方で、もう正直、毎日どなられ、たたかれの連続だったんですよ、正直。仕事がきついというのももちろんありはしたんですけど、ちょっと毎日、どなられ、たたかれの連続で、もう毎日その繰り返しだったもので、時には蹴られみたいなね、もうちょっと仕打ち的な扱いされたんで、正直。ちょっとこれは精神的に続かないだろうっていうように自分で思って、もうやめる判断を自分で下して、それでやめました。

<42cm・24歳・高卒・男性>

長時間労働・高密度の労働

正社員の職場での長時間労働の問題が指摘されているが、若者の離職の背景にも、長時間労働や、労働密度の高い職場の問題が影を落としている。

(運送会社に学校斡旋で就職)(勤務時間は)求人票では8時半～5時半までだったんですけど。実際入ってみるとやっぱり多少のズレはあって最初は7時から6時とか5時半くらいで上がらせてもらったんですけど、やっぱり仕事慣れてくるにつれて朝の6時とか。…で夜は12時過ぎちゃったりとか。始めびっくりしちゃって。10時とか11時は普通でしたね、毎日。…(毎月の残業時間は?) だいたい100時間くらい。…(仕事をやめたのは?) やっぱ朝5時とか6時に起きて、夜遅く、またつぎの日も早く起きてということが続くと身体がだんだん持たなくなってくるんです。でも「やっぱりみんなやっていることだから」って我慢してたんですけど、やっぱり辛いなって。…(いっしょに入った同年代の人はいないの?) 一人いました。18歳の人が。でもその人は入って2～3ヵ月くらいで辞めちゃって。

<43cm・20歳・高卒・男性>

大卒との格差

職場の学歴間格差も離職の要因になっている。次のケースは、力をつけ仕事をこなしているという自負があるだけに、後から入ってきて仕事ができない大卒との給与が逆転していることに納得がいかない。離職の要因としては以前からあったものだろうが、職場の高学歴化が進みつつあり、かつての高卒と同じ仕事で大卒が入ってきているという最近の傾向が特に理不尽さを強く感じさせるのだろう。

(やめたのはなぜ?) 仕事の内容的には別に問題はなかったんです。週休2日で仕事もイライラなかったし、給料とか割に合わなくなってきて。3年も働いてくるとだんだん上に上がっていくじゃないですか。ピット長の代行やったんですけど、給料はそれに伴ってきてへんみたいな。で、不景気で高卒の子らが多かったんですけども、不景気やから大学卒業生とかもうちに来るようになり始めて、大手入られへんから、僕らみたいな会社に入ってきて、給料がスタート時点が全く違くて、たまたま大卒の給料見たんです。そんなら明らかに、ちょっとおれ負けてるやんみたいな給料やったから。…こっちは3年やって、ピット代行して、ある程度いろいろ仕事こなせるようになって、あほくさ思いうて。…ちょっと待ってやみたい。それで店長に話したんですけど、店長は全然話にならなくて、次長とかに話したけど、仕方がないみたいな。ならやめますわ…。なかなかやめさせてくれなかったんですけど、もういいです、配転かえるいう話もあったんですけど。

<45cm・24歳・高校卒・男性>

業界への幻滅

職場のいやな面を見て幻滅することも、離職の要因である。これも、特に新しい傾向ではないだろう。

(高校卒業しはった時は、何をしてはったんですか?) 美容院に就職したんですけど、その会社の社長さんが経営してる職業訓練校に行って…(美容院には、正規職員で就職したんですか?) はい、社員で、…(今は)辞めて職業訓練校にだけ行って…(美容院をやめたのはなんでですか?) なんか、店のやり方とか、1年では分かれへんとかよく言われるんですけど、やっぱり人間のこととか、色々、嫌なこととかもででくるし、その、技術的なものでも見てもあんまり勉強になれへんとか思ったり、上の人は言うだけ言うけど、下のことはなんかあんまり分かってないみたいな、そういうところもあったから。

<46cf・19歳・高校卒・女>

4.2 高等教育卒就職者の早期離職

高等教育卒業者の短期離職率も高まっている。そこで語られる理由を整理してみる。

表1-8 早期離職した高等教育卒就職者のケース

対象者ID	47em	48em	49em	50em	51em
年齢	26	24	26	25	22
学歴	大卒	大卒	大卒	専門卒	専門卒
性別	男	男	男	男	男
地域	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	関西
現状	無業	職業訓練	無業	無業	アルバイト
就職先	アパレル貿易 商社	ベアリング製 造業	レンタル業	外食産業	設計会社
就業期間	1年半	5ヶ月	2年8ヶ月	4ヶ月	3ヶ月
正社員就職先離職				○	
上司とのトラブル				○	
上司からの暴力				○	
他にやりたいこと					○
勤務条件が違っていた					○
仕事がかたがたしない	○	○	○		
仕事内容あわない		○	○		

仕事がこなせない

(アパレル関係の貿易商社に入って、1年半で退社)：(仕事はやってみてどうでしたか?) 楽しかったんですけど苦勞も多くて、とにかく体力が要って大変だった。あと寝る時間がないとか。…(嫌ではなかったんですか?) 嫌までではなかったんですけど、どちらかっていうと、自分のミスが発生して周りに迷惑がかかったりとか、損失を与えたりとか。結局、ミスっていてもお金が絡むミス。何のために仕事やったんだってことになっちゃうでしょう。周りの人にもすごい睡眠時間を削って仕事させる羽目にもなっちゃうし。それが一番つらかったですね。…(やめることになった直接のきっかけは?) 仕事が大変だから回せなかったんですね。…やっぱり1つの、これだけ目の前にあってやっていたらいいというんじゃないで、在庫の管理もしなきゃいけないし、お客さんに対してはサンプルがどうのこうのとか、やりとりもやらなきゃいけないし、商品の搬入、搬出に対しても指示しなきゃいけないし、いろんな生産に関しての工場に指示も出さなきゃいけない。ほかにもB品が何枚とか、問題が起きたみたいな話を、全部、平行してやらなきゃいけなくなっちゃうと、どこかが抜けちゃったらもうアウトですよ。そんなのがずっと続いちゃって、これ以上、続くともう管理できないってなっちゃったんですね。…最低限、責任を負わないと、社会人として、やっぱり働いているってことになりませんか。…向こうから、もうちょっと無理なんじゃないっていう感じで。僕もちょっともう無理だなって思った。(やめたときの気持ちは?) ほかの仕事にももうつけられないんじゃないかって思い始めちゃったりとか。…こんな仕事もできないんじゃないかっていうのが1つあって、どこに行ってもだめなんじゃないかとか考えだしちゃったりとか。

<47em・26歳・大卒・男性>

(47em) のケースは、学生時代からアパレル関係の仕事がしたいとの希望があり、積極的な就職活動をして、この会社に営業職で入った。意欲を持って仕事に取り組んでいたものの、仕事がこなせきれなくなり、自信を失って辞めている。最近の職場の傾向として、若手社員の負担の増加が指摘されているが、このケースに該当するのではないだろうか。このケースの場合は、周囲に迷惑をかけているとの負担感から辞職しているが、次のケースのように、仕事がこなせないことに厳しい評価を突きつけられて、辞めている者も少なくないだろう。

厳しい能力評価と退職勧告

次の(48em) のケースは、本人も1年ぐらいの下積み期間の配属と理解をしていたが、製造現場への配属で、機械そのものを使用した経験がない本人は非常に大きなプレッシャーを感じている。大卒社員をどのような労働力としてどう配属し、どう育てるか、本人と企業側の思惑の違いがあったと考えられる。こうした現場の忙しさにはついていけない本人の問題もあるだろう。結局、自己都合退職にはなっているものの、離職の背景には会社側からの厳しい能力評価がある。この点は、(49em) のケースも同様で、会社側の期待水準に達しなかったと断言していいだろう。このケースは、「線路が引いていないと何もできない」と指摘され、また、アルバイト社員の多い職場での正社員として「人が使えない」ということが問題にされ、「なめられキャラ」と批判されている。さらに、「雇うのにいくらかかっていると思

っているんだ。無駄に金は払えない」と言う言葉を浴びせられている。

(47em) のケースを含めて、これらのケースでは、最初の就業先で突きつけられる厳しい評価が、退職後、本人にとって大きな課題となり、正社員として次の職場を求めて就職活動をすることを躊躇するようになっている。

(ベアリング製造の会社に入って5ヵ月で退社)：最初は下積みですからいろいろ雑用みたいなのをやって。それで1年ぐらいと思っていたんですが、突然、結構責任ある仕事を任されて。責任あるというか、何というか、自分が仕事をやらないとほかの、流れ作業って言うんですかね、…自分は工作ということで、穴あけというのをやっていました。ボール盤とか、マシニングですとか。…(大学で関連領域の研究はしたが)ただ機械をいじったことはなかったです。…最初はうまくいったのかなと思ったんですけども、何かいろいろ教えられることが多くて。頭がちょっとパンクというか何というか、いろいろ教えられて頭がパニックになってたりとか。それでさらに雑用とかそんなことを。…一遍にいろいろなことを細かくとか、自分の弱点だとは思っていますけど。(つらかった?) つらかったですね。ほんとうに。休日も何もする気にならなくて。ただただ月曜日が憂うつで。ほんとにもう、何もやる気がなくて、少しでも時間を長く持ちたかったんですけど。…結局その部署では6月ぐらいまでやっていましたね。4、5、6ですね。「3ヵ月たっても残業できないのかって、新入社員で残業できないのはおまえだけだと。恥ずかしくないのか」と。…部署をかえてもらうことにしたんですが。社長も話をされて…何とか身につけようとは思っていたんですけども。もう1ヵ月後ですか、ちょっと向かないんじゃないかって社長のほうからお話がありまして。それでちょっと親ともいろいろ話し合っただけで。それでやめることを決断したんです。このままですと解雇になっちゃうので。

<48em・25歳・大卒・男性>

上司とのトラブル・職場の暴力

上記のケースは、職場でのトラブルを本人が自分の能力の問題と捕らえているが、本人の問題としてではなく、上司・職場の問題として捉えているケースもある。このケースでは暴力も介在しており、本人の職場への思いはうらみに近いものになっている。このケースの場合も、すぐに次の求職はしておらず、違う方向を求めて資格をとる方向にすすんだ。

また、これらの層で目立つのは、在学中の就職活動の活動性は高く、何が何でも就職するという意欲が強かったという点である。(50em) のケースは特に、専門学校での斡旋が(学業不振のため)望めず、自力で探すと必死にがんばった末に得た職である。こうしたケースでの採用先は、これまで高等教育卒業者を多く採用してきた企業ではないことが多く、その育成プロセスが確立していないし、また、配属先も高等教育卒業者があまりない職場であることが多い。職場の期待が本人の認識に比べて、時には過大だったり、過酷だったりということがあのではないかと考えられる。

(就職活動で、業種とかは?) もう何でも。何でもかんでも。手当たり次第。(職種は?) 全然そんなの関係ない。…何でも。もうそういうこと言われてられないの、ほんとに。何やりたいっていう自由がきかないの。そういう世界だった…一応3つ決まったんで。で

も、そのうち2つが東京だったから、それは寮で暮らせるっていうところがあったけど、ちょっとお金の感覚がずれるっていうか、やめておいたほうがいいって。(だれが言ったの?) 親。…結局、バイトから親しんでいる、外食産業がいいんじゃないって、1社決まったから。(で、どんな仕事なんですか?) もうバイトと一緒に。…バイトのように、ほんとにたたき込まれて教えられてた。…接客もやったし、調理もやったし。一通り全部やらされた。…(そのお店にずっといたの?) いないよ。(どうしたの?) やるのは構わない、教えるのも構わない。けど、ちょっと暴力とかあったから。…あとちょっと、会社の状態があまりよくないみたいなことが。将来性もないし、あと、社長がないがしろにされているのが気に入らなかった。…部下数人いて、もう戦争になったら、みんなこっちにつく。社長にはつかない。おれらは反乱を起こせるんじゃないかみたいな。(暴力振るわれたというのは、そのお店の上司の人に?) 肉体的には店長さんから、心は上司がやったんです。

<50em・25歳・専門学校卒・男性>

働く覚悟

次の例は、就職先の職場との関係ではなく、本人の中に、自分の生き方と働くこととの折り合いが十分つけられていない、という職業選択段階の問題をのこして就職したための早期離職である。

(専門学校卒業後) 就職したんですけど、2、3ヵ月でやめました。…(やめたのはなぜ?) 嫌だったというのもあります。今思えば若かったんだろなと思うんですけど。それと、今バンドをやっているんですけど、そっちを本格的にやりたいなと思って。べたなフリーターという感じですね。(バンドはいつから?) 専門学校の終わりぐらいからやり出して、やっぱり就職して土日しか休みがないんで、融通きいてとれなくて、バンドでやるにはちょっとしんどい環境だったので。それで、もう嫌だし、やめてしまえという感じで。…専門学校をもうすぐ卒業というときに、僕はこのままでいいのかなと思って、その流れでバンドを…このまま卒業して、社会人になって、ずっとここで働くのか、おれ、こんなんだったのかな、何かやりたいことないのかなという感じですかね。

<51em・22歳・専門学校卒・男性>

4.3 小括

この説では、早期離職の理由を学歴別に見た。

高卒者で早期離職したケースについては、本人の側に就業のための準備ができていないケース、仕事内容が合わないケース、勤務地の変更に従いたくないため辞めたケース、職場の暴力や、長時間・高密度の労働、大卒との格差、業界への幻滅など、職場側の問題も大きいのではないかとと思われるケースがあった。

高等教育卒業者で早期離職したケースについては、高い就業意欲を持って(中には、どんな業界でもいいと)積極的な就職活動をして、入社したものの、仕事がこなせないため、さらに職場からむしろ退職勧告を受けて、離職するケースが目立った。これらの背景には、高等教育卒業者をあまり採用してこなかった職場で、かつ、ギリギリの人数で運営しているような職場において、早くから大きな責任が与えられたり、過剰な期待がよせられる等の事情があると考えられる。最近の傾向として、絞り込んだ採用の結果、若手社員の労働密度が高まっているという指摘もある

(労働政策研究・研修機構 2004)。こうした職場要因から離職する若年者も少なくないだろう。ただし、彼らは自信をなくしての自分から辞めるか、「将来に影響がある」と自己都合退職の形をとることを勧められるので、統計上の失業理由は自己都合という形になっているのではないかと考えられる。

5. 離学後、離職後の労働市場と意識

学校を離れたり、最初の職場を離職したのち、次に正社員で就業していないから無業やアルバイトでいるわけで、なぜ次の正社員の職に就いていないかも「スムーズな移行」の障壁を探る上では重要な視点である。本稿では、これまでの記述の中でそれぞれのケースの離学、離職後の状況の概略を記しているが、この節では改めて（再）就職していない理由として述べていることを整理してみる。

5.1 正社員の就業機会の限定

正社員の口が少ないこと、なかなか採用されないことが、まず正社員になっていない理由としては挙げられる。採用されない理由として挙げられるのは、知識や経験がないことが最も多い。

求人がない・採用されない

正社員への求職活動としては、新聞の折り込みチラシのチェック、ハローワークに求人を見に行くという行動を多くの者がとっていた。そこで「いい求人がない」「応募しても採用されない」と正社員への壁を大きく感じている者は多い。特に地方では、高校を卒業したばかりの若者には応募できる求人が非常に少ない。

今は何もしてなくて、仕事を探している。(どうやって?) ハローワークに通ってる。…パソコンみたいな画面があるんで検索して、求人が来ているのを探してる。(窓口で相談したことある?) 混んでるんで。曜日にもよるんだけど、毎週火曜日には新しいのが出るんで。今日も行くんですけど、ん、多分、市内に2つくらいあると思うんだけど、両方行っても同じくらい混んでる。並んでいる人も立っている人もいるくらいだから。…ハローワークでもパートっていうか、それでも探せるし、求人とか情報誌とかにも載っててそういうのでも一応探しておいて。

<24cf・19歳・高校卒・女性>

(就職できずに卒業、その後は?) 最初は就職、やっぱり探してたんですけど。(ハローワークで求人を見たら) 20歳からってわかってたんで。…親も20歳までに就職見付ければいいって。

<25cf・18歳・高校卒・女性>

友達が急に就職が決まっちゃったんで、もうびっくりして、ここで僕もちゃんと毎日のように職安行って、ここで決めたいと思ってたんです。…もう次はやめることができ

ないので、仕事が厳しいとかじゃなくて、一生できる、任せていいのかなというところを選びたかったんで、厳しさはある程度やったから経験あるんで、そういうでかいところは何か資格が要ったり、面接はやってくれない状態で、何個か受けても落ちたりで。

<41cm・22歳・高校卒・男性>

技能・経験の不足

正社員への壁は、具体的には、技能・技術や経験がないことでまず書類選考などで落とされることに現れる。また、資格を取ることの難しさや、資格を取ったとしてもそれで就職が容易になるという見込みがもてず、資格取得にも動けない。専門教育を受けた(30ef)のケースも、実務経験がなく女性で年齢が相対的に高いことがハンディになっていると感じている。

コーディネーターみたいなのあるじゃないですか。インテリアコーディネーターみたいな、あれしたら、ちょっと楽しいかなみたいな。やめて、そっちへ行こうかなと思ってたけど、免許がなかったから、書類選考で落とされて。…未経験ではなかなか無理かなと思って。あきらめるのも早いけど。…自分でも(インテリアコーディネーターの)テストは受けられるみたいですけど、なかなか通らんみたいで。何か今さら学校行くのもなと思って、ちょっと勇気要るなと思って。もっと早いうちに行けたらよかったなという後悔もあります。…何とか家具、そういう関係も送ってみたけど無理で。なら家具製造やったらどうかなと思ったんやけど。自分らで考えて家具をつくったりとか。…つくるほうはどうかなみたいな。自分で考えて家具つくれたらむちゃええちゃうかな。興味があるし、何個かいったけど、やっぱり機械使われんかったら話にならん言われて。

<45cm・24歳・高校卒・男性>

僕の場合、小さいですけどなるべく配達がしたいなと思ってるんですけど、それを見ていくとないんで、とりあえず最初それを見るんです。やりたい仕事を見るんですけどないから、だんだん妥協して行って探していく。(大型免許を取ろうとか考えていますか?) お金がないし、取っても大型トレーラー、トラックで免許を持っていても、実務3年とか書いてあるじゃないですか。だから、大型でも絶対やってなかったら採ってくれないですから。

<41cm・22歳・高校卒・男性>

(映像・音響系の専門職を目指して…大体どのぐらい今まで応募したと思う?) 30以上はしてます。面接までいったのは、20は行ってないけど、10以上は行って。 (自分で、何で通らないんだろうと思う?) 今通らないのは、未経験者ですので。それと年齢。23か24(歳)というのは、女の人だから。

<30ef・24歳・専門学校卒・女性>

また、(45cm)のケースは、高校進学時に本人は工業高校を志望していたが、親と教師の勧めで普通科に進学した。失業し、再就職で技能を持たないことからくる壁を前に、この進学を悔やんで「その時点で僕はもう終わってしまった」とも感じている。技能・技術の獲得の重みを改めて感じたとき、今後の獲得の難しさと過去の選択の悔いとは重くのしかかり、次への意欲がなかなか湧かない状況に陥っている。

心の準備

応募しても受からないのは、正社員になることの覚悟といった本人側の心の準備不足というとらえ方をしているケースもある。

正社員で働こうとかは考えてはいたんですけど、自分がこういうやる気（がない状態）だし、無理なのかなみたいな思いが強くて、親戚から勧められてホテルの面接に行ったこともあるんですけども、やっぱり面接の中で自分をうまくアピールできなくて、落ちちゃいました。…何か、平坦っていうわけでもないんですけど、淡々としていた感じで、自分の中でこれはだめだなみたいな。あと、やっぱり自分の中で正社員で月のほとんどを仕事するっていう心の準備がまだできてなかったのかもしれない。

<2am・22歳・中卒・男性>

アルバイト経験のマイナス

アルバイト経験が長いことや、経験職種の内容が正社員に就くにはマイナスになるという認識もある。次のケースの場合は、正社員として事務職を意識しているのではないかとと思われるが、喫茶店での仕事経験がマイナスイメージを与えるのではないかと危惧し、正社員は「無理」と判断している。

（正職につきたいという考えは）あるけど、無理。…喫茶店とかってイメージあんまりよくないんです。…「昔の人に言わしたら、あれは水商売」って言ってきた人がいた。「面接の人にあんまり言わんほうがええよ」って、喫茶店でバイトしてたっていうのは。…あるんかなって思ったけど。あと、フリーター歴が長い。4、5年になる人。1年とかやったらまだ言い訳とかいろいろできるじゃないですか。

<29ef・24歳・短大卒・女性>

正社員経験がない、応募するには技能・技術や経験がない、アルバイト経験はむしろマイナス評価されると、自らを労働市場では不利な立場であると意識しているために、正社員への意欲を失っているものも少なくないのではないだろうか。

5.2 アルバイト・非正社員の利点

一方で、アルバイトをはじめ正社員以外の雇用形態にメリットを感じているから正社員になるための求職活動をしていない場合も少なくない。その利点としては、まずアルバイトや非正社員なら就業できること、こうした雇用形態からやりたいことにつながる機会であること、その仕事や職場が楽しかったり、収入面で勝っていたりすることが挙げられる。

就業機会が豊富

正社員に比べてアルバイト等は就業の機会が豊富である。

まず、就業チャンスの伝達が、友人・知人の誘いというインフォーマル・ネットワークよ

ってスムーズに行われている場合が目立った。採用試験など難しい壁があるわけではなく、また、友人に誘われて一緒にアルバイトにはいるので、安心感があり心理的なハードルも低い。

探してる時に（友達から）「一緒にバイトしようや」って誘われて、まあ「とりあえずバイトでええわ」と。…アルバイトはもう4月に決まったんで。

<37cm・19歳・高卒・男性>

（最初の職場をやめてから）3ヵ月か4ヵ月ゴロゴロしてました…何かで友達の番号を知って、おれ、今、プーやねんって言ったら、なら、おれが行ってるところ来いやみたいな、ガードマンですけど、軽トラで〇〇市まで行ってやっとなねん、やるかみたいな感じで、2人で軽トラ乗ってやってたんです。

<41cm・22歳・高校卒・男性>

（飲食関係で働いていた彼氏から）誘いがあったんです。「ちょっと気軽やし、やってみいひん」と言われて、ああ、いいな、いけるやろと思って。

<12df・20歳・専門学校中退・女性>

（アルバイトに就いたきっかけは？）これも友達。…何か、「だれかおらん？」みたいな感じで友達も聞かれてて、たまたまその時期に私が。…1年か、2年。（その後は）〇〇の知り合いの喫茶店みたいなところで、最初はお手伝いというような感じで入って、そのまま。（いつごろ？）前の喫茶店とかぶって行って。1、2年。（このバイトはどうして？）そこの店長をしている人と知り合いになったというか。

<29ef・24歳・短大卒・女性>

アルバイトへの契機は、こうした友人・知人からの誘いのほか、すでに、学生・生徒のころから多くが経験しているために、それをそのまま続けるという形での入職も少なくない。

（就職関係については全く何もしなかった？）はい。（在学中のバイトを続けていこうということですか？）だと思ふ。（高校を出ても）何も変わらない感じです。

<17cm・19歳・定時制高校卒・男性>

（周りの子は結構就職した？）半々ぐらい。半分は学校からとかで就職して…。就職が決まっていない子は、その子らがずっと高校からやってたバイトが長くて、卒業してから別々にバイトでいいねんみたいなのか。

<18cf・20歳・高校卒・女性>

このほか非正社員の就業機会としては、若者への支援の一端として、地方自治体や学校、若者就業支援機関における臨時・有期限の雇用機会がある。本調査のケースでは、こうした機会は学校や支援機関から声をかけられる形で対象者に伝えられ、採用されている。先の友人の誘いと同様に、声をかけられた本人の心理的ハードルは低い。今後同種の事業が重要な役割を果すと思われるが、公募に積極的に応募するという行動をとらない若者たちにも支援を広げるためには、支援機関側から積極的に声をかけていくという施策運営が有効ではない

かと思われる。

(理科の実験助手の紹介は?)、応援するみたいな制度が〇〇高校にはあって、そういう仕事があるけど、それやったら卒業した後、ほかのところでバイトするよりはここのほうが、…自分やったら、その辺でバイト見つけたら、結局流されてしまうかなとか、そこでやっぱりずるずる働いてしまうかなと思いましたけれども。

<20cf・18歳・高校卒・女性>

こうした、就業機会があるから正社員以外の雇用に応募するという場合、意識のうえでは、「とりあえず」という者が多い。

(卒業を迎えた時点で何やっていたかというものってありました?) とりあえずバイトをやっていたかみたいな。(その時点でバイトは?) 〇〇〇のレジにバイトが決まって、4月から。

<16cf・24歳・高校卒・女性>

アルバイトの方がいい、アルバイトでもいい

これに対して、積極的にアルバイト等の就業形態を支持して、アルバイトを選んでいるケースも少なくない。

積極的な選択理由として挙げられるのは、まず、本人の志望する職種・仕事がアルバイトという雇用形態である、あるいは最初はアルバイトからのほうが入りやすいという理由である。典型的なのは、テーマパークでの仕事やファッション販売系での販売員としての仕事である。

〇〇テーマパークができたときに働いてみたいというあれがあったので…(就職活動をやめたのは、テーマパークでのアルバイトをしたいという気持ちがあった?) ありました。ちょっと2つこんがらがったとき、これもやりたいんだけど、あれもやりたい。だから、就職する前にちょっともう一つだけ経験しておこうかなと思って。…そうですね、もう基本的に時間的にもやっぱり余裕があったので、もし採用していただけたらやっぱり一日も充実できるし、家でというかほかの仕事やっても、今まで長続きできたのは〇〇〇のアルバイトだから。

<36em・26歳・大卒・男性>

服が好きやったから、その販売とかを。…服屋さんで働いている子から、服屋さんの面接は学校には来ないと聞いていたから。…服屋さんで社員になりたいとかではなくて、服屋さんで働けたらバイトでもいい、若いうちしかできへんしという感じやって。

<18cf・20歳・高校卒・女性>

アパレル系、僕行きたかったんで。何ていうんですか、百貨店とか、ああいう感じ行きたいんで、ほんとはそういう系でバイトしたかったんですけど。っていうか、社員とかなりたいんですけど、なかなかないんで、とりあえずお金欲しいじゃないですか。だから(靴の)販売の仕事をしてながら、今、探してるんですよ。

<23cm・21歳・高校卒・男性>

アルバイトは楽しい・収入がいい

アルバイトでの職場の楽しさや、収入に満足して、アルバイトがいいという者もいる。楽しさは、マスコミ関連で好奇心が満たせる職場だったり、同世代の若者の多く、仲間と楽しく働ける職場だったり、好きなものを扱う職場だったりするところからくる。収入面では、正社員となったときの長時間労働を考えると、割がいいという感覚が語られている。

(アルバイトを始めたときには、当面はフリーターでという気持ちだったの?) そうです…在学中の1月からもうやっていました。テレビ局の下働きっぽい、雑用っぽい…。(人気がありそうなアルバイトですね。) そうですね。(タレントさんとかに会えたりか?) ありました。でも、報道フロア担当だったので、あまり芸能人には会えないんですよ。…楽しかったですね。

<34ef・24歳・大卒・女性>

(飲食店での) バイトのほうは、初めてやったし、初めのころは、人間関係はしんどかったです。…頑張っ、やっぱりなれてきたら、みんないい人やってわかったから、すごい楽しかった。…そこからすごい楽しいですね。何ぼ疲れとって、みんながいてるから頑張ろうかなという気もなるし、バイトでしんどいと思ったことはないな。

<12df・20歳・専門学校中退・女性>

(服屋のアルバイトに入ってみてどうでしたか?) 楽しかった。…別に知識とかはいらなかった。その場で覚えたみたいな。

<18cf・20歳・高校卒・女性>

(寿司屋のバイトに入っ) 今だけのことを考えたら、バイトのほうは金ええから。今は正職になったほうがちょっと高いけど、このまま続けとったら時給が上がったらバイトのほう。時間的に考えたら、金は少ないけどバイトのほうは金もらえてるから。

<3bm・17歳・高校中退・男性>

働くんやったら、ちゃんと社員になりなさい、ていうか、保険がちゃんとついてるところに行きなさい、ていうのは、ずーと、ずーと今までずーとずーと言われてきてたんですけど。社員になって、10万そこらの給料になるんやったら、フリーターで入ってて、20万以上もらって保険自分で払っていくほうが、私はいい言い切ったんです。

<22cf・19歳・高校卒・女>

5.3 将来のキャリア、他の活動とアルバイト

将来のキャリアにつながる一時期のアルバイト

アルバイト等の雇用形態を選ぶ理由には、現在への関心ではなく、将来のキャリアを見通したときの今という位置づけで選んでいる場合がある。キャリア設計の中の一時点としてのアルバイトである。まず、(33em) のケースは、公務員試験を受けて公務員を目指す方向をさぐりながら、平行して内部登用試験を受けて正社員につながる道として、スーパーでのアルバイトを選んでいる。また、(44ef) のケースは、産業カウンセラーの資格には実務経験が必要なので、そのために派遣社員で働き始めることを決めている。このほか、学校に通ったり資格を取ったりするために、まずアルバイト等で資金を得ようということによって正社員以外の

雇用を選ぶ者は多い。

(仕事をやめ公務員試験に落ちてから) …29歳が国家Ⅱ種の最終年齢制限ですから、そこまでとりあえず頑張ってみようかと。何らかの稼ぎが必要だよねという話をして、〇〇で今、パートで働いてという話なんです。…まず公務員に受ければいい。受からなくてもパート社員の規定、社員登用の道もあった。…試験を受けて。そういう仕組みなんです。非常に公平な仕組み。…半年に1回(の試験を受ければ)、早く行ければ3年か4年かもしれないけど、落ちるってこともあるから。そういうふうなことをやって、社員登用の道も開かれていないことはない。これで上がっていけば、もちろん自信も上がりますから。

<33em・27歳・大卒・男性>

そのときは労働省認定だったのが産業カウンセラー協会だけだったんで、…そのためには社会経験も必要だから。もうそのときはボランティアとか思っていなくて、心理に関するものはイコール人事とっていて、就職しなきゃと。お金も要るし。それまで塾で相談とかのバイトをしてたんですけど、もう就職しますって言って。いきなり就職はちょっと人事はできないので、社会経験が必要でっていうことで、とりあえず派遣で経験をしてお金もためましようっていうことで、もうばんばんって一気に決めて申し込んで。

<44ef・27歳・大卒・女性>

将来につながるキャリアの途上という意味では、次のケースのように、専業主婦になるつもりがあるから、ハードルの高い正社員を選ぶ必要はないという選択もある。

(私も) バイトでいいと思っていたし、何年も働かんわ、2年ぐらいしたら結婚していると思ってて。…卒業して2年ぐらいは適当にバイトをして、2年ぐらいたったら結婚して専業主婦になってと思っていた。

<18cf・20歳・高校卒・女性>

現在の他の活動との兼ね合いでのアルバイト

現在の他の活動との兼ね合いから時間の融通が利きやすいアルバイトを選ぶという行動もある。他の活動にはバンドのように、将来のキャリアとの結びつきが有るものもあるし、家族の介護などの場合もある。

今はバンド(やっていきたいので)(就職は)「行ってなくてよかったな」って思いますけど。

<37cm・19歳・高卒・男性>

(就職先をやめたのはなぜ?) 嫌だったというのもあります。今思えば若かったんだろうなと思うんですけど。それと、今バンドをやっているんですけど、そっちを本格的にやりたいなと思って。べたなフリーターという感じですね。(バンドはいつから?) 専門学校終わりのぐらいからやり出して、やっぱり就職して土日しか休みがないんで、融通きいてとれなくて、バンドでやるにはちょっとしんどい環境だったので。それで、もう嫌だし、やめてしまえという感じで。

<51em・22歳・専門学校卒・男性>

その友達と同じアルバイトをして、そこに一応入ったんですが、それは1、2ヵ月たったときに、うちの親が病気になっちゃって、入院みたいなことになっちゃって、お父さんに無理やりやめろと言われた。ちゃんと看病とかしろって。…それで、結局1年近く。何も仕事しなくて…お母さん自体はそんなにずっと入院してたわけではないんですけど、やっぱりすごい心配で仕事はできなかったです。それでそろそろ大丈夫かなみたいな感じで、就職しなくちゃいけないんだけど、とりあえず最初からそんなうまくできるわけがないから、前行ってた、その人のバイトで、ちょうど友達から電話がかかってきて、人手が足りないんだけど、補助としてきてくれるかなと言われて、それじゃというので、それから現在に至っています。

<30ef・24歳・専門学校卒・女性>

5.4 正社員への意識と就業への意欲

正社員への行動を起こさない理由として、正社員へのハードルを越えるためには、職業能力の獲得や資格の取得が必要だという認識から、まず学校や訓練校に行くという行動を取るケースも多い。

職業能力獲得のための学校・資格

なかなか（就職が）決まらないので、じゃあ、何か勉強しようかなということで簿記の勉強を。…前に2級のテストを受けたんですけども落ちちゃって、今回は1級、2級を一緒に受けたんです。…それでも、もう1級のテストも終わったし求職活動をちゃんとしようと思ったんですね。それでハローワークに。

<34ef・24歳・大卒・女性>

（外交官試験に落ちて）まあ、しようがないかと思って。…（それから郷里に帰られて？）〇〇県に戻っているときに勉強を始めて…（何で社労士の試験を受けようと思ったんですか？）別に今も年金に興味があるわけじゃないんですけど、司法試験は何か今、ロースクールがどうのこうのと言っているし、司法書士もちょっと難し過ぎるし、じゃ、手軽に社労士をやってみようかなと思って。

<32em・28歳・大卒・男性>

ちょうど大平光代さんの本が出たころだったんです。それで、何かすごいなと思ってあこがれまして、法律の関係だったら、資格さえとれば学歴がなくても働けるかなみたいに思いまして、しようと思いました。…ただ、アルバイトをやりながら独学で勉強していたんですよ。それだと続いていなくて、親に「そういうことをやっているよりは就職しなさい」みたいなことを言われたりして、続かなかったですね。

<2am・22歳・中学卒・男性>

自信回復の期間・考える期間

正社員へのハードルが職業能力でなく、働いていく自信であることがある。最初の正社員の仕事で何らかのダメージを負って辞めた場合に多い。

（最初の仕事を5ヵ月で辞めてから次のアルバイトまで）やっぱりちょっとあきっていらんですか、ブランクってのがあるんですけども、（次の）接客の仕事から次の仕事に行くに関しても、やっぱりちょっと長いブランクっていうのがあいてしまって…（ブ

ランクってどれぐらいあった?) 9ヵ月ぐらいですかね。…。(この9ヵ月、このときってというのはどういうふうに過ごしていたんですか?) 特に何もせずに。何ていうんですかね、家のことをやったりって感じ。やっぱり、最初ついた仕事でも、教えてもらう人がああったからっていうのもあるんでしょうけれども…結構、このブランクは思い悩んでいた時期だった気がしますね。

<42cm・24歳・高校卒・男性>

アルバイトから。ちょっと自信なかったんでアルバイトを最初にやろうと思って。最初に2ヵ月くらいは工場のほうでちょっとアルバイトをやったり、登録制のところ、紹介されたところで工場とかがあったんですけど、2ヵ月ぐらい、結局、やってたくらいだったかな。

<47cm・26歳・大卒・男性>

その後、先月までやっていたんですけど、引っ越しのチラシのポスティングのアルバイトをしてたんですよ。マンションとかアパートとか、それを1年半から2年。…(普通は)短期ですね。何かあったんでしょうね。自分でスケジュールを組めたので。週1日でも2日でも、土日休んでもいいし、平日休んでもいい。…『〇〇(アルバイト情報誌)』で見て、自分でスケジュールを組めるし、じっとしているのは嫌だから、まあ、いいやと思って、働けるならいいかなと。…(孤独なのは)それは結構よかったです。いろいろ考えることができたし。今思えばありがたかったくらいかなと。いろいろ考えたかったし、よかったかなと。

<7cm・24歳・一旦中退後高卒・男性>

これらのケースは、職業能力の獲得、あるいは、自信回復の期間として、無業やアルバイトの日々を位置づけている。そうした準備期間が必要なのは、各人がそれだけ自分の納得できる仕事としての正社員を意識し、そのハードルを自ら高く設定しているからであろう。働くことを重視し、またそこに自己表現をこめる価値観があるから、今すぐには正社員に応募していけないのだとも言える。

就業への逡巡

こうした納得できる仕事というハードルではない、一定の社会関係としての就業に入ることを躊躇する意識も感じられるのが次のケースである。全く求職活動をしていないわけではないが、真剣に探しているとも言いがたい。意識の方向付けがないまま、逡巡している状態で、何らかの後押しが必要なかもしれない。

(今までに応募したことはありますか?) 直接電話して。屋根のリフォームのような感じの。…(それはどういったところがいいと思ったのですか?) 外でする仕事がいいかなと思って。(他にはありますか?) 大工とか。でも聞いたら資格がないとダメと言われた。(じゃ見習い修業をしようかなと思ったりしましたか?) ないです。

<14cm・19歳・高校卒・男性>

働きたいとは思いますが、いざとなると動けないんですよ。…知らないところとか初めてのことに挑戦するのがいろいろ不安になったり。(ハローワークとかにもいっているのに)でも、なかなか実際に応募するまでにはいかないんですよ。…実際に働くのを考えると怖くなったりして。…バイトしか経験がないから、ちゃんとこ

なせるかとか。

<31ef・24歳・短大卒・女性>

5.5 小括

この節では、離学、離職した後に正社員として就業しないままにいる理由として語られていることの整理を試みた。

まず、一つの軸は正社員の雇用機会が限定されており、そもそも就業機会が乏しい、あったとしても、なかなか採用されないという理由である。地方の高校を卒業したばかりの者に対しての求人は特に少ない。また、採用に至らないのは、技能・技術、経験の不足が多く者が挙げる理由である。本人の働く覚悟ができていないことやこれまでのアルバイト経験がマイナスに働くといった認識もあった。

また、むしろアルバイトをはじめとする非正社員の働き方に利点があるからであることを指摘するものも多かった。その利点としては、第1に、アルバイトや非正社員なら就業できる機会が豊富で就業しやすいことがある。アルバイトは友人・知人からの誘いが多く、心理的ハードルも低い。さらに、最近では若者支援施策としての有期限雇用の機会もある。ただし、これも誘われる形で入っており、支援機関側からの積極的働きかけが重要な契機になっている。第2に、テーマパークの仕事やファッション販売など、やりたい仕事がアルバイトの形態であったり、アルバイトからの正社員登用が多いことが挙げられる。第3には、アルバイトでの仕事自体が楽しいとか収入がいいというものである。楽しいのは、同世代が多く楽しい職場だったり、マスコミ関連で好奇心が満たされたり、好きなものを扱ったりすることによる。収入は、正社員になったときの長時間労働に比べれば割に合うという感覚であった。

さらに、アルバイトなどの非正社員を選ぶのは、将来のキャリアに向けての一時期の選択である場合や、現在の他の活動との兼ね合いで時間的に融通が利くことを重視しての選択である場合もあった。

また、自分の納得できる仕事としての正社員を意識し、そのハードルを自ら高く設定していることから、正社員への準備として職業能力獲得の時間をかけ、あるいは、何らかの失敗で傷ついた就業への自信を回復させるために一時期無業やアルバイトを選択しているケースがあった。また、一定の社会関係としての就業に入ることを躊躇する意識が感じられるケースもあり、こうしたケースでは、何らかの後押しの必要性が感じられる。

6. まとめ

この章では、学校から職業への移行プロセスのどの段階でどのような障壁があり、正社員での就業から離れていくのかを分析した。

まず、最初の段階は、高校へ進学しない、または、中途退学する段階である。この段階で学校から離れることは、すなわち正社員就業の経路から離れることにつながる。これには、まず①学業に価値をおかず、学校生活を支える価値は友人関係であり、行動を規制する学校を抑圧装置と感じるタイプがある。彼らは、学業不振と学校への反発から学校から離れていく。友人関係は学校外にもつながっている。②友人関係の形成が進まず学校に不適応を起こしたタイプ、③勉強に集中し高い業績をあげたものの先の目標につながらず挫折したタイプである。離学後は、①では金を稼ぐ目的ですぐ就業する。友人からの誘いで就業口を見つけることも多い。ただし、就労上の規律や基本的な生活習慣が確立していなかったり、友人との遊びが生活の中心であるために、長続きしないことも多い。②、③は、すぐには就業に至らない。①と異なり、音楽を目指したり、農業を目指したり、自分を表現するものとしての仕事を探す。経験も職業能力もない自分を意識して、戸惑うケースもある。

高等教育での中途退学も、正社員就業への経路からの離脱につながる。中退理由には、①大学進学以前の進路選択に問題があり関心も適性もない学科に進学した、②職業希望を持って大学・学科選択をしたが、不本意入学であったこともあり、周囲の環境になじめなかった、③学校の厳しい生活指導への反発、逆に、何の枠付けもない生活に孤立・孤独に陥った、などがあつた。中途退学後は、短期のアルバイトを中心にするものが多い。背景には経験を広げ次の進路を探そうとする意識があると思われる。また、何らかの学校機関を使って、職業能力を身につけ再スタートを切りたいという気持ちを持つものが多い。

卒業はしても就職活動はしていないケースは高卒者に多かった。こうしたケースには、まず、①単位や出席日数が不足して卒業の見込みが立たないために、就職プログラムにのれないケース、②何をしたらいいのかわからないから就職も進学もしないケース、③学校外で、就きたい仕事のためにアルバイトに応募する、などのタイプがあつた。このほか、進学や公務員受験を再受験するために浪人をするが、途中で進路変更をし、その結果アルバイト就業になったケースもある。

次の段階は学校卒業段階で、正社員になるための就職活動をして、内定をもらえず就職できないというケースである。まず、①学校にくる求人が少ないことが背景にある。特に、東北地方のケースでは求人が極端に少なく、情報処理科で関連資格を取り、学業成績はむしろ優秀なケースでも内定がもらえないまま卒業している。地域の労働市場状況が大きくかわる。②都市部では定時制の学校卒業者で厳しく、また学業成績や出欠状況の悪いケースで就職できない。③進学希望があつて就職活動が遅れたケースでは、応募先がなくハローワークに行っても不調だった。

高等教育卒業時点でも同様に就職できなかったケースがある。短大・専門学校卒では、卒業制作など、2年次の専門教育と就職活動を両立させることが難しく、就職活動が不活発で

あったケースが有る。こうしたケースでは学校での専門を生かした専門職への希望が強いので、卒業後も方向性のあるアルバイトをし、専門職への求職活動を続けている。また、専門職に直結しない課程や本人が特に専門職での就職を望んでいないケースでは、(事務職求職となり)就職できないことが珍しくない状況になっている。学校の友人、仲間集団の行動が本人の行動に大きく影響を与えている。また、専業主婦志向もあって、アルバイトに就くことに抵抗がないケースもあった。

4年制大学卒業者では、自由応募の慣行の中で、業種・職種の絞込みをどう行うのが難しい課題になっていた。一斉一括採用のタイミングに乗る「就職」の重要性を意識しており、それだけに、就職と自分の生き方とどう折り合いを付けていくのかを正面から悩んでいるケース多い。その時点での自己認識・考え方にしたがって業種・職種の絞込みをおこなっているのだが、現実的体験不足もあり、現実的な労働市場とのすりあわせが難しい者もいる。また、大学入学時点で浪人し、在学中に留年し、と複数年の遅れを感じているケースで、公務員や資格職業への志向が強くみられた。移行のいずれかのタイミングで乗り遅れることが、(民間企業における)一斉一括採用、入社年次による人事管理において不利になると感じ、こうした志向につながる面も考えられる。

次の段階は、学卒時点で就職しても早期に離職する行動をとったときである。

高卒者で早期離職したケースについては、本人の側に就業のための準備ができていないケース、仕事内容が合わないケース、勤務地の変更に従いたくないため辞めたケース、職場の暴力や、長時間・高密度の労働、大卒との格差、業界への幻滅など、職場側の問題も大きいのではないかと思われるケースがあった。

高等教育卒業者で早期離職したケースについては、高い就業意欲を持って(中には、どんな業界でもいいと)積極的な就職活動をして、入社したものの、仕事がこなせないため、さらに職場からむしろ退職勧告を受けて、離職するケースが目立った。これらの背景には、高等教育卒業者をあまり採用してこなかった職場で、かつ、ギリギリの人数で運営しているような職場において、早くから大きな責任が与えられたり、過剰な期待がよせられる等の事情があると考えられる。最近の傾向として、絞り込んだ採用の結果、若手社員の労働密度が高まっているという指摘もある(労働政策研究・研修機構 2004)。こうした職場要因から離職する若年者も少なくないだろう。ただし、彼らは自信をなくして自分から辞めるか、「将来に影響がある」と自己都合退職の形をとることを勧められるので、統計上の失業理由は自己都合という形になっているのではないかと考えられる。

最後に、離学、離職した後に正社員として就業しないままにいるという段階が有る。

正社員就業しない理由は、①正社員の雇用機会が限定されており、そもそも就業機会が乏しい、あったとしても、なかなか採用されないという理由である。地方の高校を卒業したば

かりの者に対しての求人は特に少ない。また、採用に至らない理由として多くの者が挙げるのは、技能・技術、経験の不足である。本人の働く覚悟ができていないことやこれまでのアルバイト経験がマイナスに働くといった認識もあった。

また、②アルバイトをはじめとする非正社員の働き方に利点があることを指摘する者も多かった。その利点としては、第1に、アルバイトや非正社員なら就業できる機会が豊富で就業しやすいことがある。アルバイトは友人・知人からの誘いが多く、心理的ハードルにも低い。さらに、最近では若者支援施策としての有期限雇用の機会もある。ただし、これも誘われる形で入っており、支援機関側からの積極的働きかけが重要な契機になっている。第2に、テーマパークの仕事やファッション販売など、やりたい仕事がアルバイトの形態であったり、アルバイトからの正社員登用が多いことが挙げられる。第3には、アルバイトでの仕事自体が楽しいとか収入がいいというものである。楽しいのは、同世代が多く楽しい職場だったり、マスコミ関連で好奇心が満たされたり、好きなものを扱ったりすることによる。収入は、正社員になったときの長時間労働に比べれば割に合うという感覚であった。

さらに、③アルバイトなどの非正社員を選ぶのは、将来のキャリアに向けての一時期の選択である場合や、現在の他の活動との兼ね合いで時間的に融通が利くことを重視しての選択である場合もあった。

また、④自分の納得できる仕事としての正社員を意識し、そのハードルを自ら高く設定していることから、正社員への準備として職業能力獲得に時間をかけ、あるいは、何らかの失敗で傷ついた就業への自信を回復させるために一時期無業やアルバイトを選択しているケースがあった。また、一定の社会関係としての就業に入ることを躊躇する意識が感じられるケースもあり、こうしたケースでは、何らかの後押しの必要性が感じられる。

以上の分析から、政策的には次のような対応が必要ではないかと考えられる。

- ① 本調査は少ないサンプルでの聞き取り調査であるが、各学校段階での離学および離職の背景要因はそれぞれ異なっていた。全容を把握するに足るサンプル構成での実証分析を行い、それぞれの移行の隘路を明らかにし、それぞれへの対応策を講ずる必要がある。
- ② 中等教育段階での中退および卒業者のうち、学業不振、基本的就業準備不足のある者を対象にした就業準備教育が必要である。具体的には、産業界と連携によって就業現場での体験教育、職業訓練を学校段階から取り入れて、就業への意欲を喚起し、むしろそこから学校教育の意味を理解させる方策が可能ではないだろうか。また、学校や友人関係への不適応から中途退学や進学を放棄する者への対応に、職業的観点からの情報提供や相談のサポートが必要である。また、どちらのタイプにしても、学校におけるこれまでの就職斡旋プロセスには乗ることができないので、学校外の組織を通じての就業支援を

行う必要がある。

- ③ 高等教育での中途退学者については、高校での進学指導のあり方を見直す必要があると同時に、高等教育入学後の個別のキャリア相談をとおして、転科・転部、場合によっては転学を含めてサポートする必要がある。中退者および学卒未就職者の両者にとって、初期の生活指導や専門教育を通じて、本人の職業的方向付けの探索を喚起した相談や情報提供を通じて個々の探索をサポートすることが重要であろう。
- ④ 離学後、一定期間、試行的就業や幅広い経験をへて職業的方向付けの明らかになる者がいることを前提にした、就業サポートや採用のあり方が望まれる。その際の実業サポートには積極的な働きかけ姿勢が必要である。

引用文献

労働政策研究・研修機構（2004）『第1回ビジネス・レーパー・モニター調査／若手正社員の姿』 http://www.jil.go.jp/kokunai/bls/monitor/documents/blm_040123.pdf